

嘘 と 七

1



作画
kyun ja

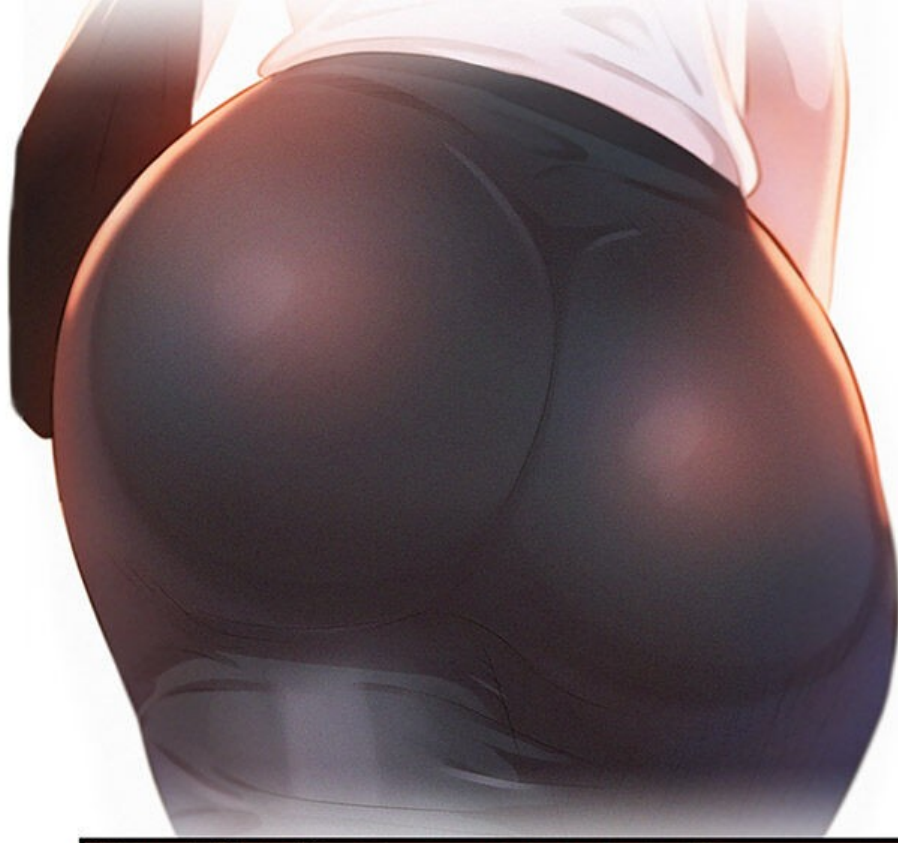
原作
タルチョー

C O N T E N T S

#001 はじまりの嘘	4
#002 もう一人のお姉さん	28
#003 無意識のうちに…	45
#004 秘密のカギ	61
#005 誘惑	78
#006 二人だけで…	97
#007 濃密な甘い夜	113
#008 不安に駆られて	127
#009 いつもと違う…?	141

嘘
セと
フレ





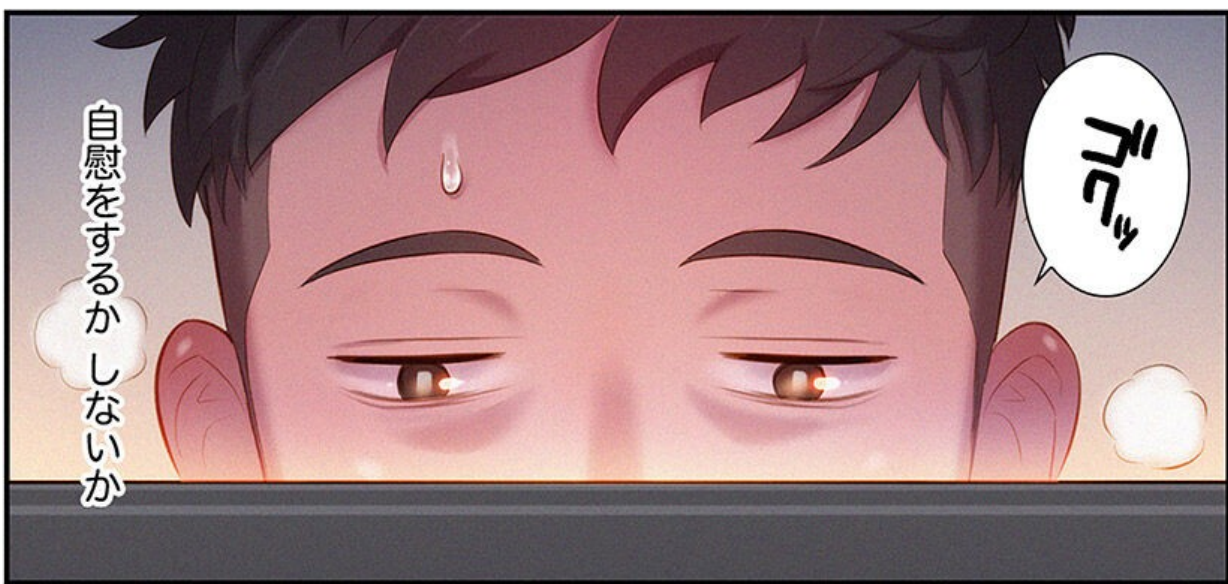
緊張で
汗ベトベト…



ふう…早く
着替えたい…



男は一日に一回
決断を迫られる



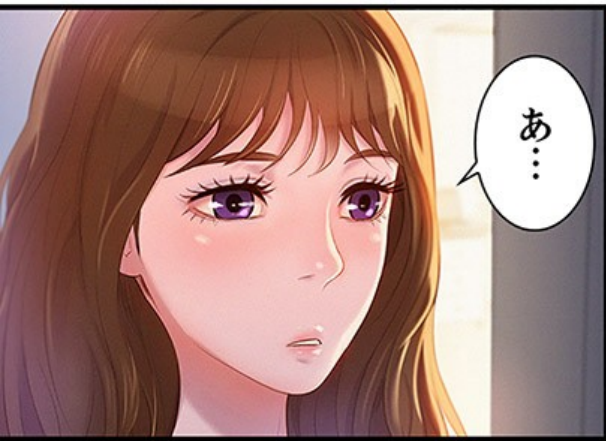
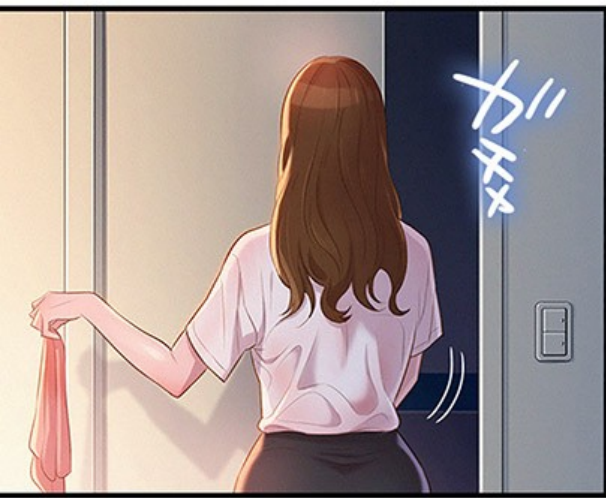
自慰をするかしないか

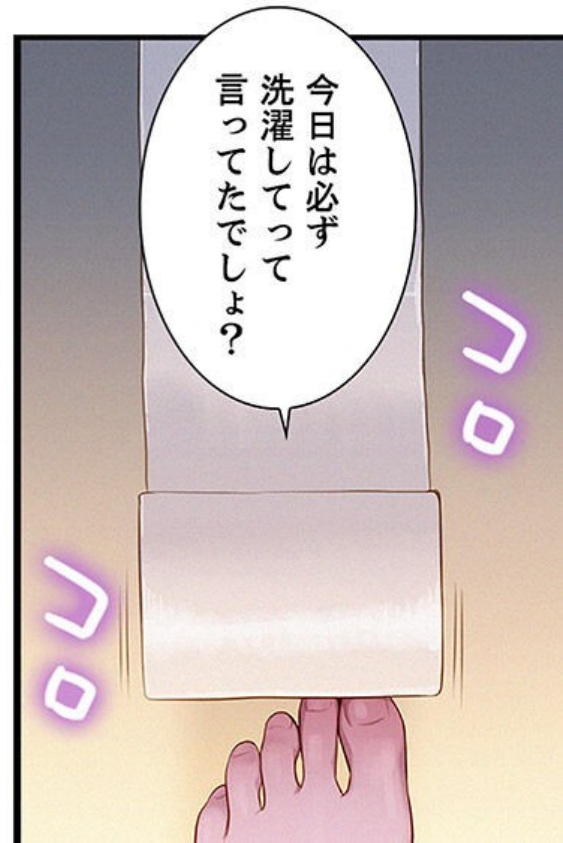


快樂と引き換えに
賢者タイムを迎えるのか？

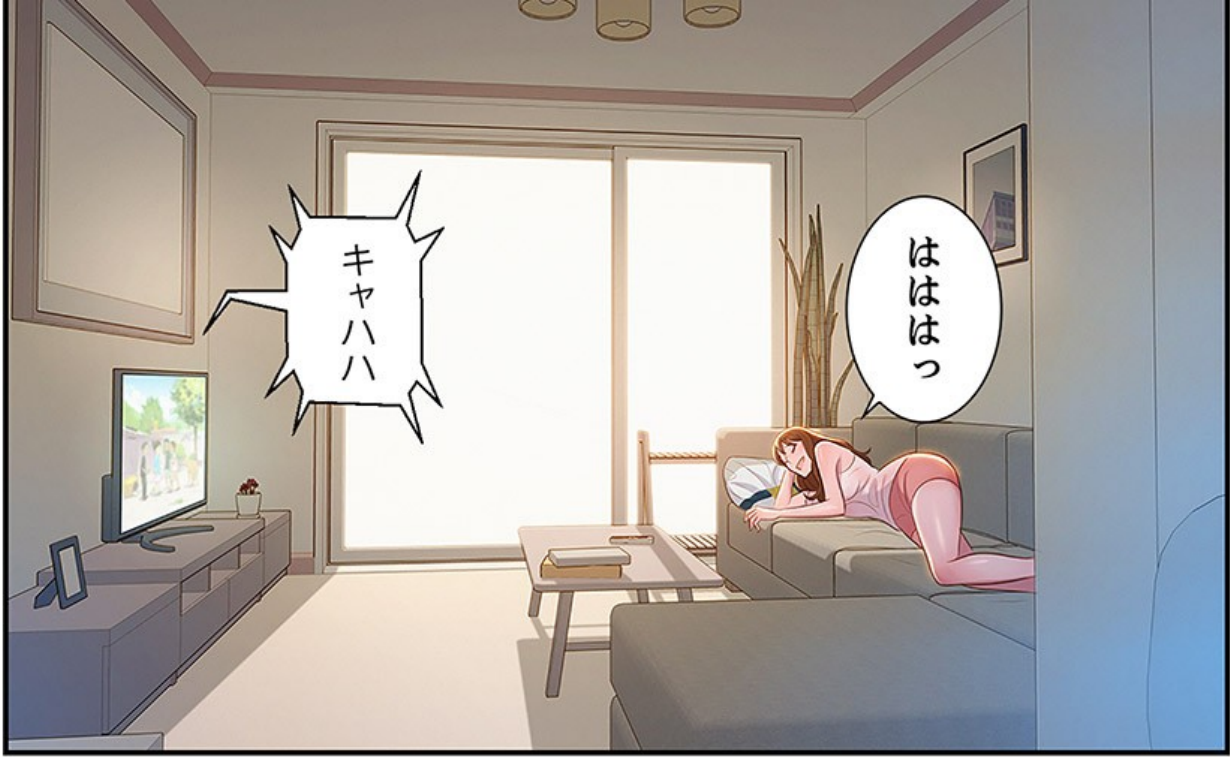


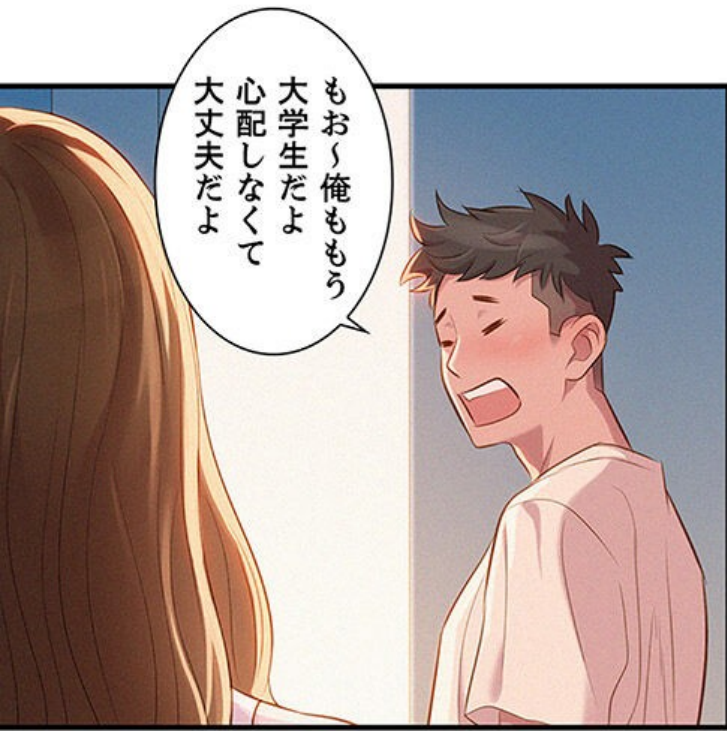
あえて眠ってるコイツを
起こす必要はあるのか？











もおく俺ももう
大学生だよ
心配しなくて
大丈夫だよ

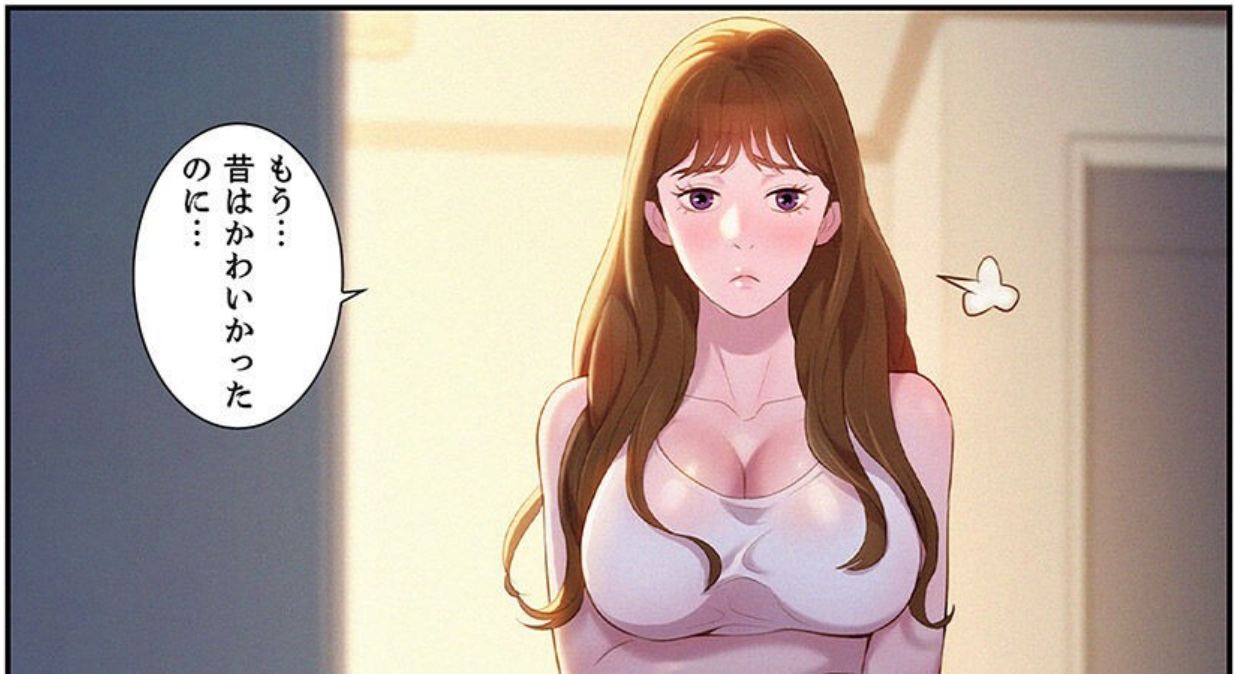


元々あった
約束だって

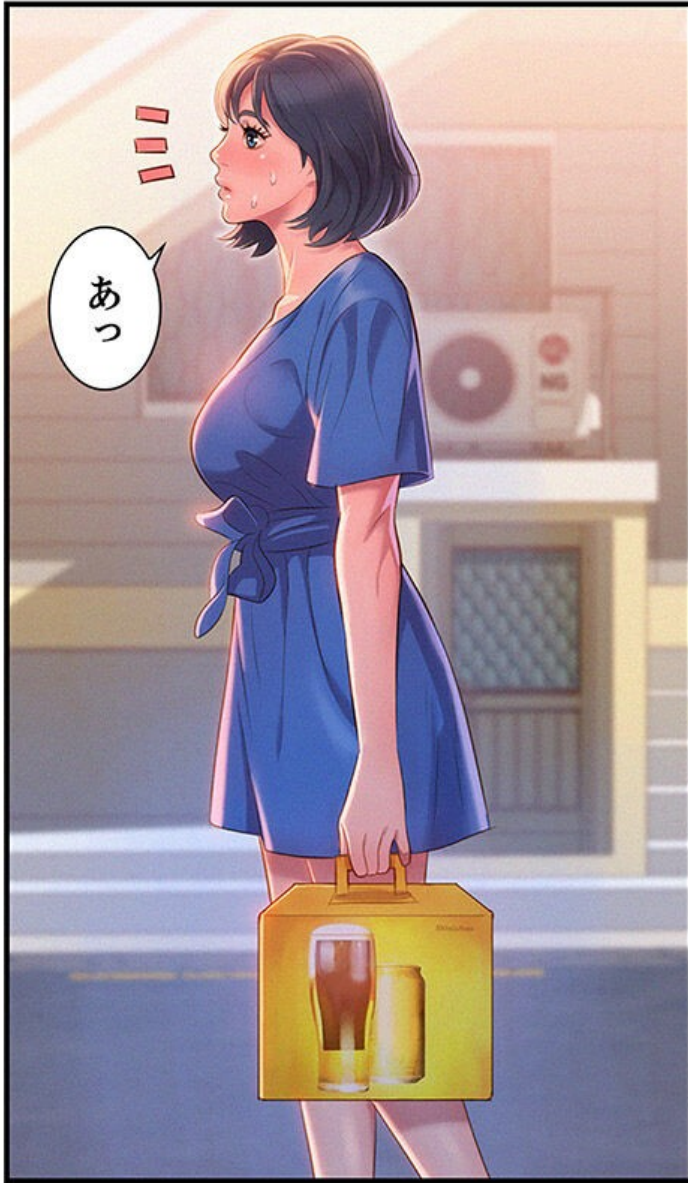
飲み過ぎないで
早く帰って来なよ

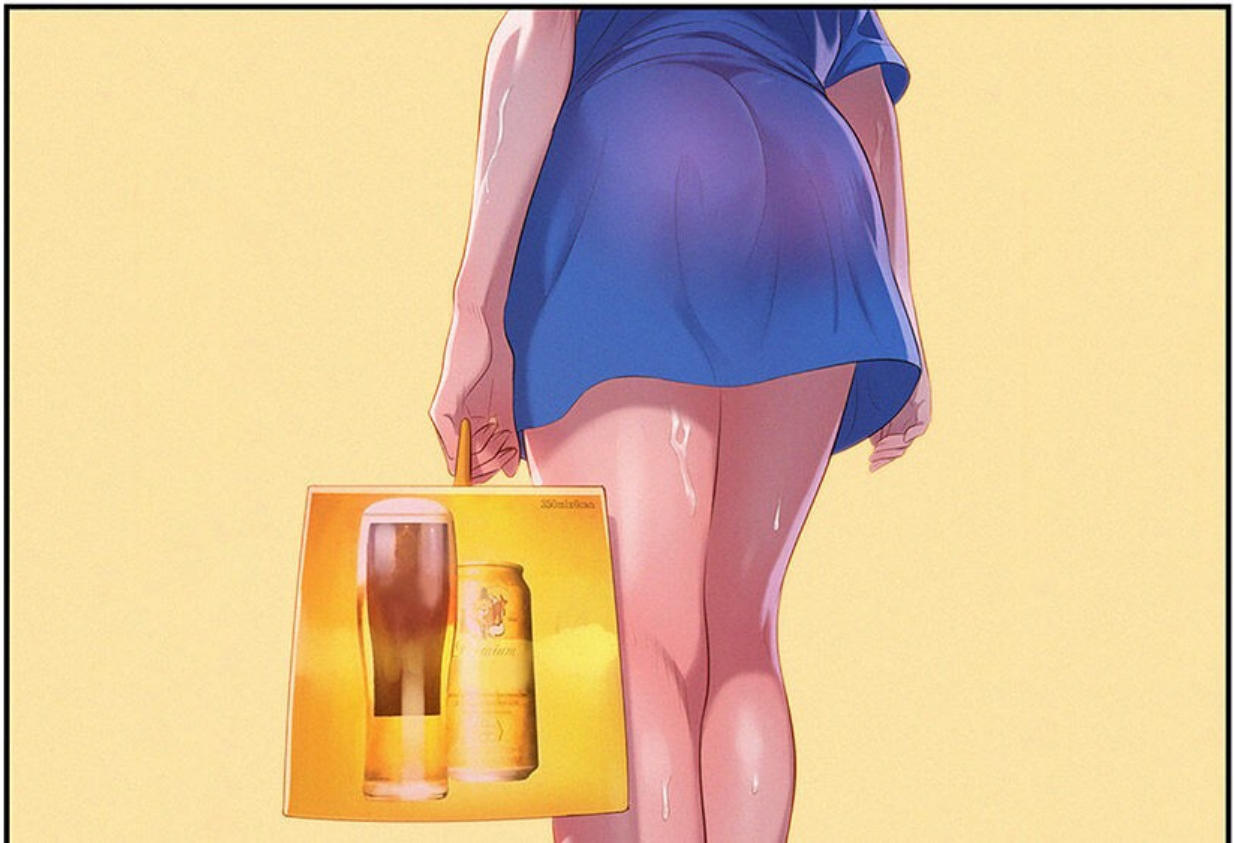


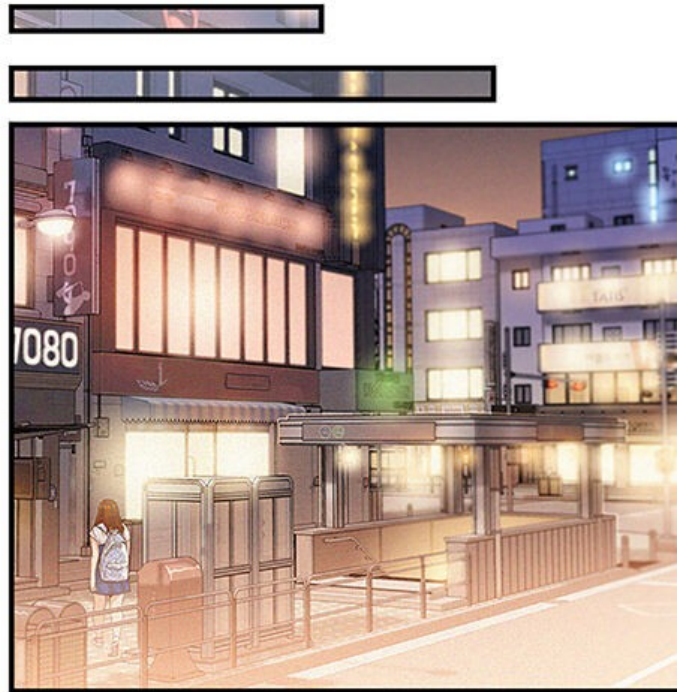
あんまりひどいと
ご両親に言うわよ

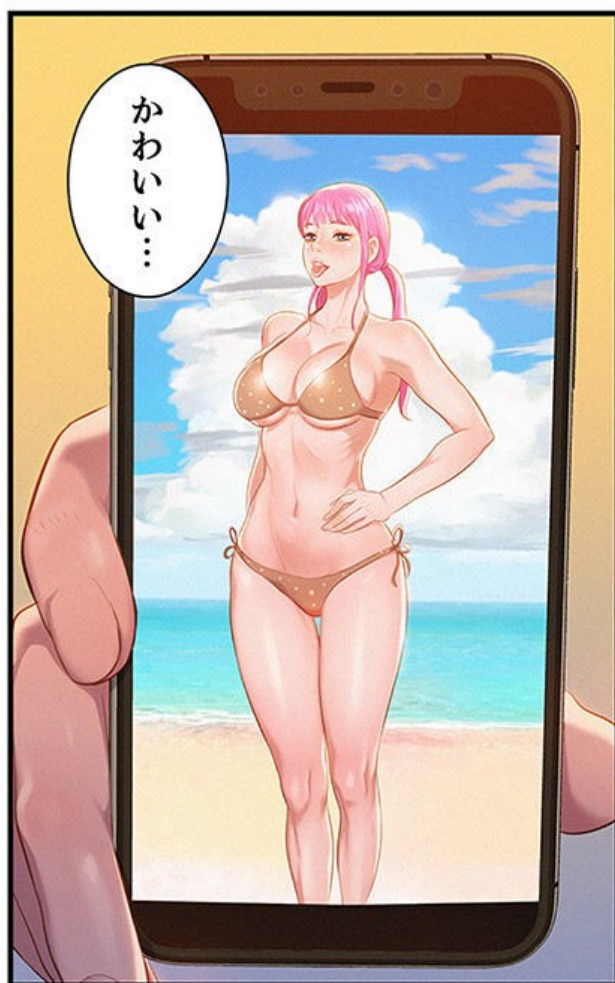


もう…
昔はかわいかった
のに…











後ろから握ったら
手の中いっぱいだよ
いっぱい



当たり前だろ
顔もだけど
胸もすげーんだぜ



はあん

それに乳首だけで
すげー感じるんだぜ？

ッ

ッ



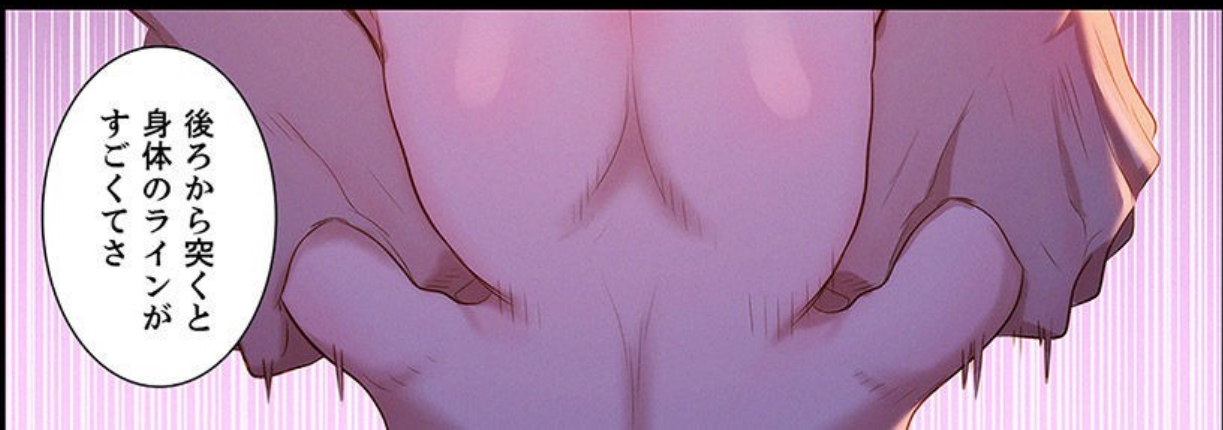
ゆっくり焦らして
挿入したら最高だよ

ああん



あのセックスは
忘れらんねーよ

はあっ



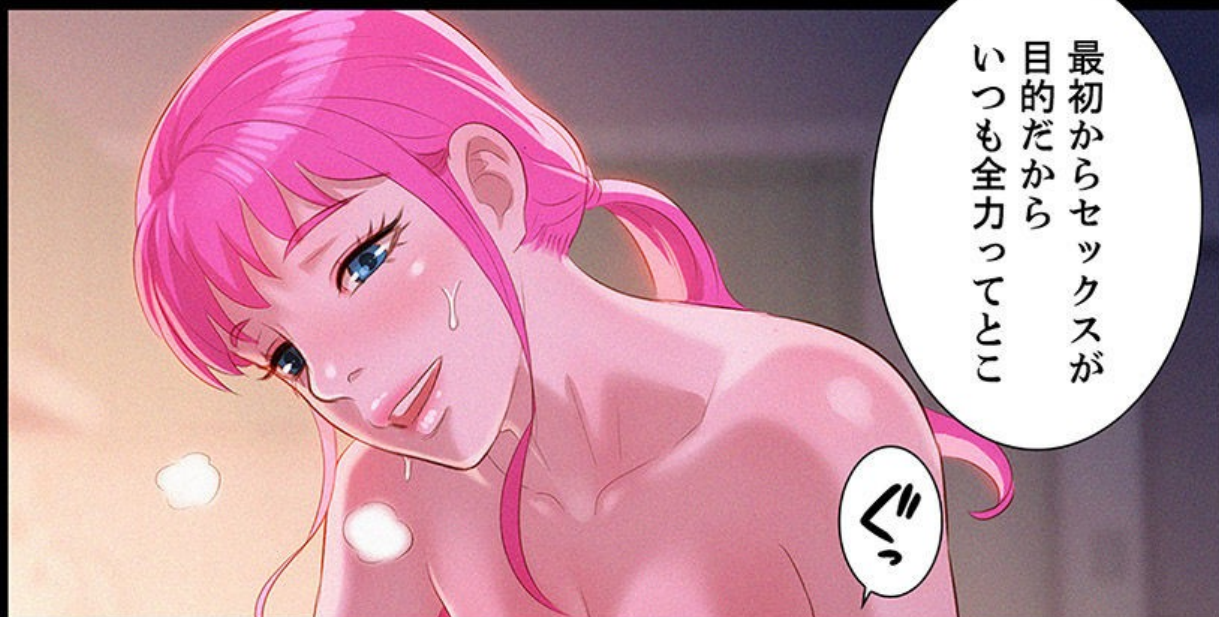
後ろから突くと
身体のラインが
すぐくてさ



ああん

でも何が一番
良いかわかるか？

んっ



最初からセックスが
目的だから
いつも全力ってとこ

ぐっ



自分から上に
乗って腰を
振りまくるんだよ

はあん

ああん

そして絶頂の瞬間は大乱れさ

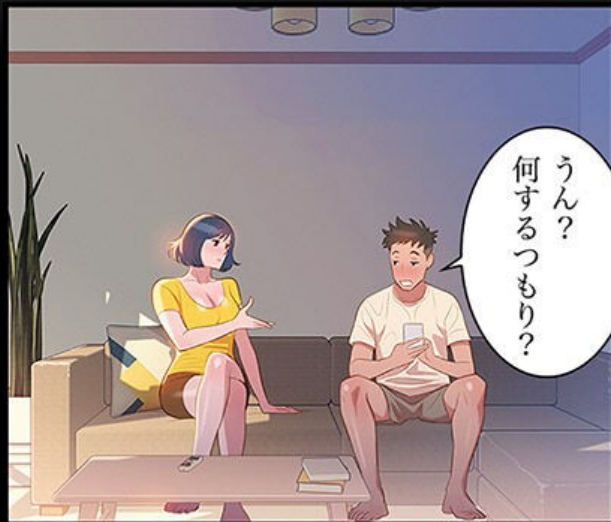
はうらうら！







この写真が...





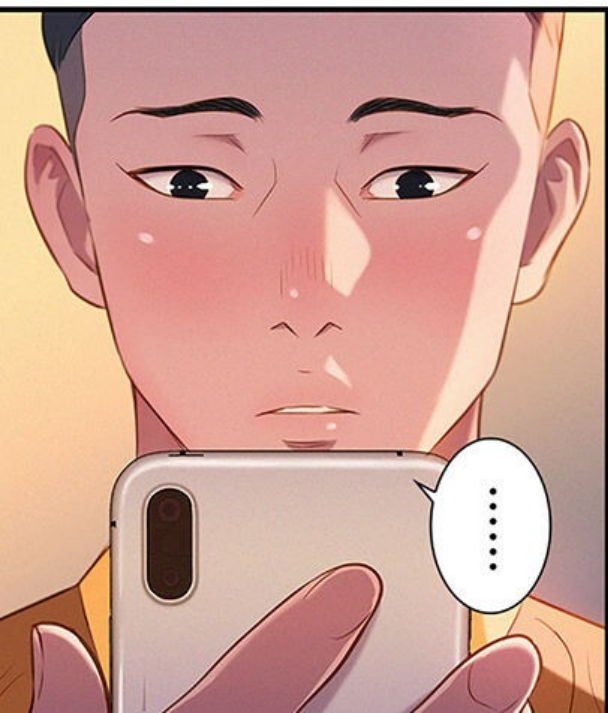




ほら…見ろよ！
俺のセフレ！



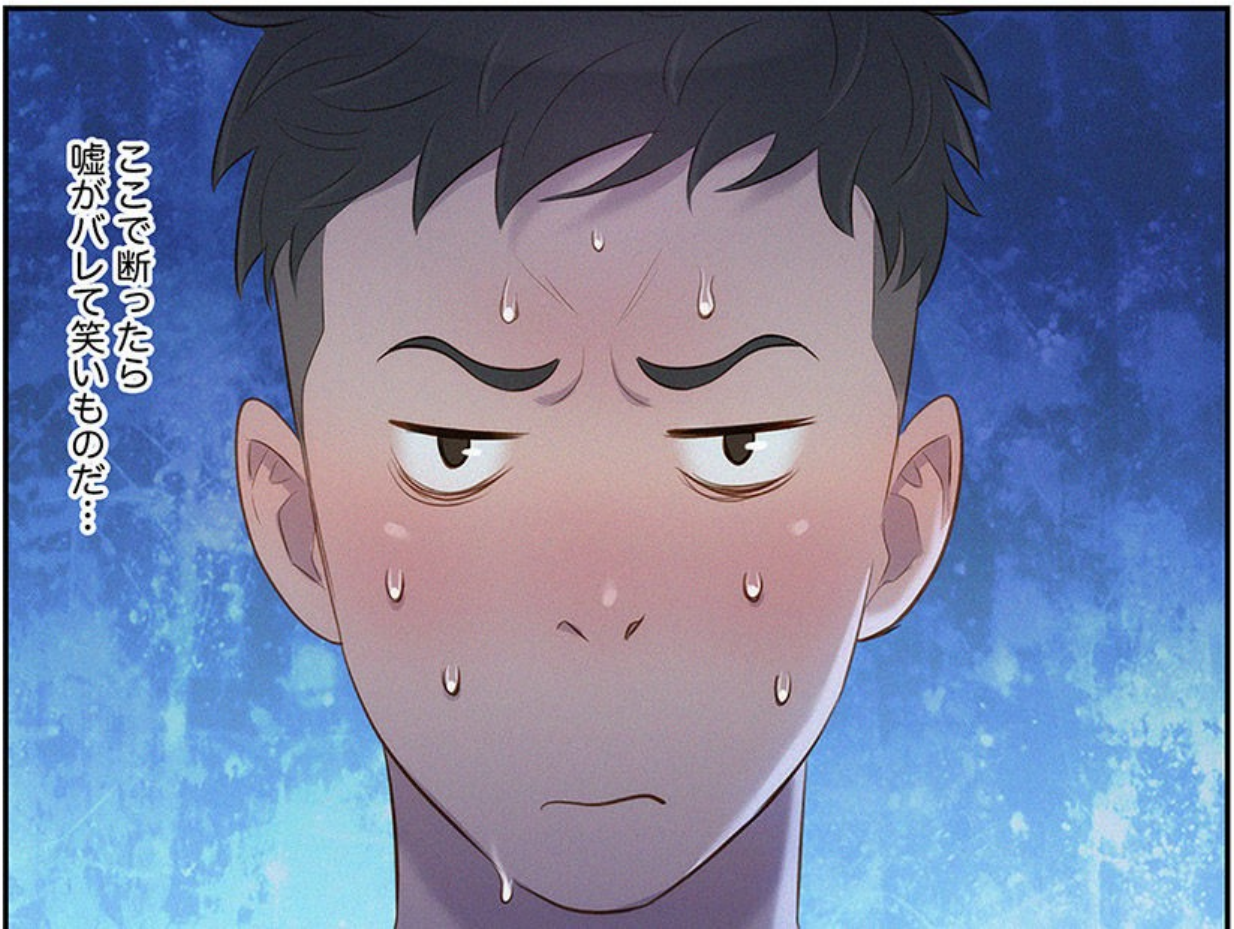
ええっ！マジ!?
こんな美人が
お前のセフレ!?



……



そんなに？
俺はいつも見てるから
わかんないけど…





オツケー
じゃあその日の夜は
セフレ交換って事で



あ……う……うん……
そうだな



あの時あの瞬間
俺は理解してなかった



……



わ……
わかった……!

何にも考えずに
吐き出したあの一言が
引き起こす事態を……



はあ…
本田のやつ…

#002



ふう…てか
どうしよう…



大学に入って
変わったな…
何だかチンピラっぽいし



由紀さんに
何て言えば…





…この酔っ払い達
自分達だって酒しか
飲んでないだろ!?



でも本当に
かわいくなっちゃって
いつもお酒飲んで
ばかりなのよ

じゃあ実家に
チクッて仕送り
止めちゃえ



なんて事
言うのよ!!

昔はあんなに
かわいかったのに!



ふう…





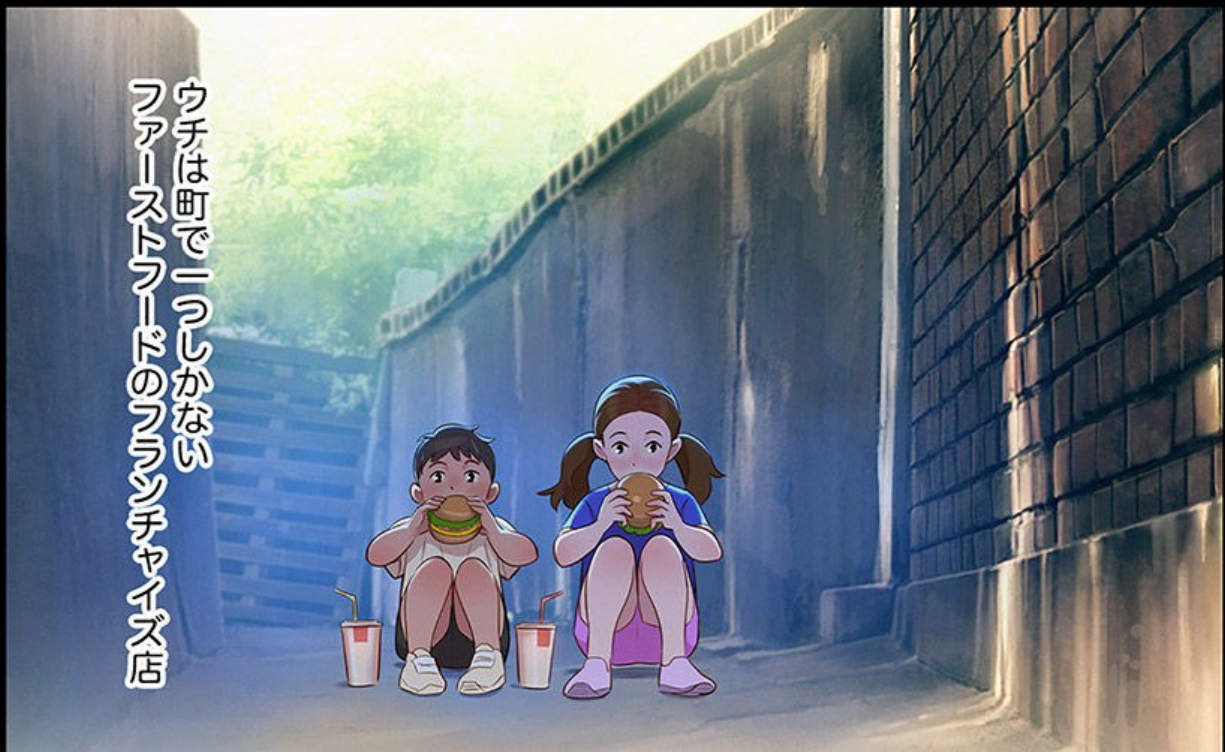
沙織姉さんと俺は
小さい時から
一緒に育った



姉さんの両親は薬局を経営していて



山里みたいな
内陸の小さな都市



ウチは町で一つしかない
ファーストフードのランチチャイブ店



市の支援事業ではあったけど
塀を崩して過ごすぐらい
仲のいいお隣さんだった



母親達は
お茶をして
時間を忘れるほど
話して過ごした



父親達は
お酒と釣りで結ばれた
親友として過ごした



山に野原に
駆け回った

俺を連れて

俺より二歳年上の沙織姉さんは



相変わらず仲がいい
姉みたいに過ぎた



決して気まづくなる事はなかったし

大きくなるにつれて
ちよっとロげんかしたりはしたけど



姉さんが大学に入学すると同時に
俺も東京で一緒に暮らした



高二になって姉さんは
東京で一人暮らしを始めて



お互いを家族として考える
両親達は二つ返事で
オーケーしてくれた



由紀さんは姉さんが
大学で出会った友達だった



由紀さんは上京してきたばかりの
高校生の俺にも
気さくに接してくれた



共通の趣味を持つ二人は
同じ町で暮らしながら
大学生活の間ずっと
仲良く過ごした



そして俺も飽きるぐらい
顔を会わせるうちに
親しくならざるを得なかった



俺にとって由紀さんは
親しい近所のお姉さんの
的存在だった

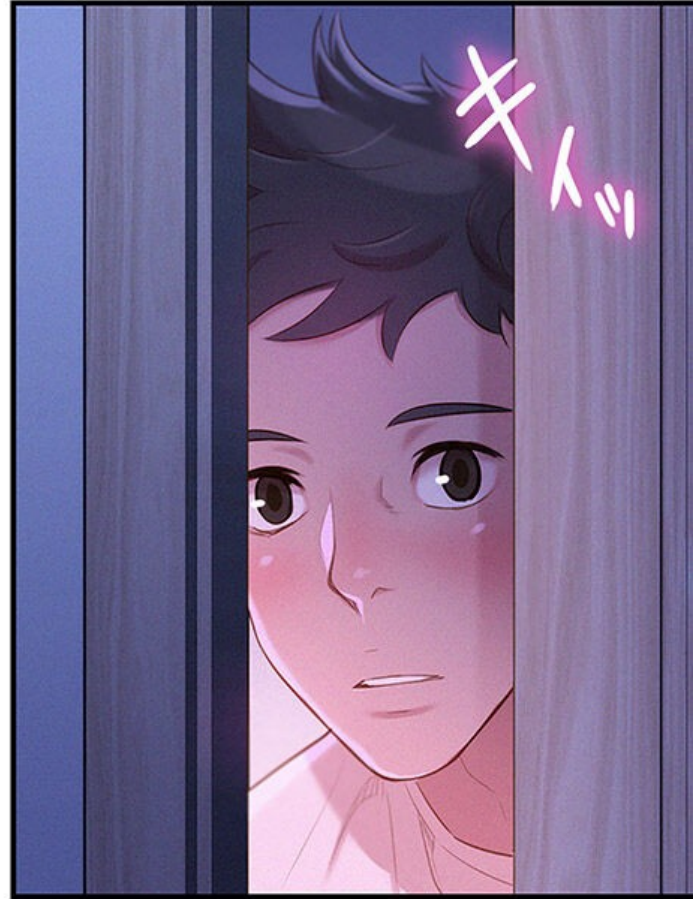


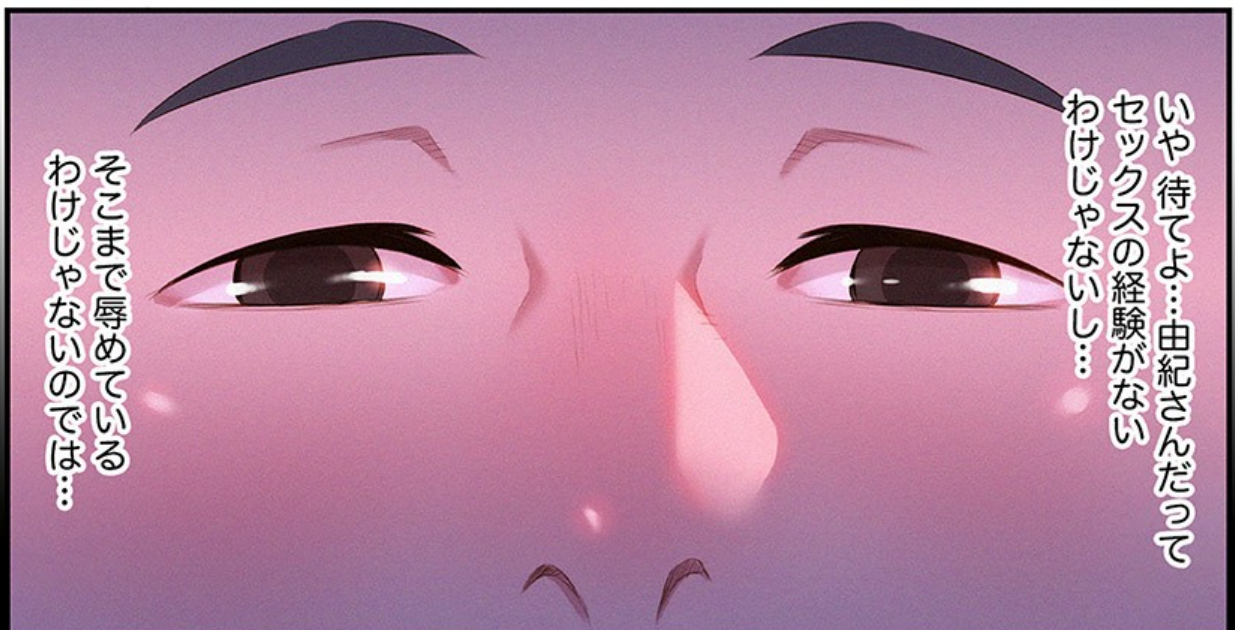
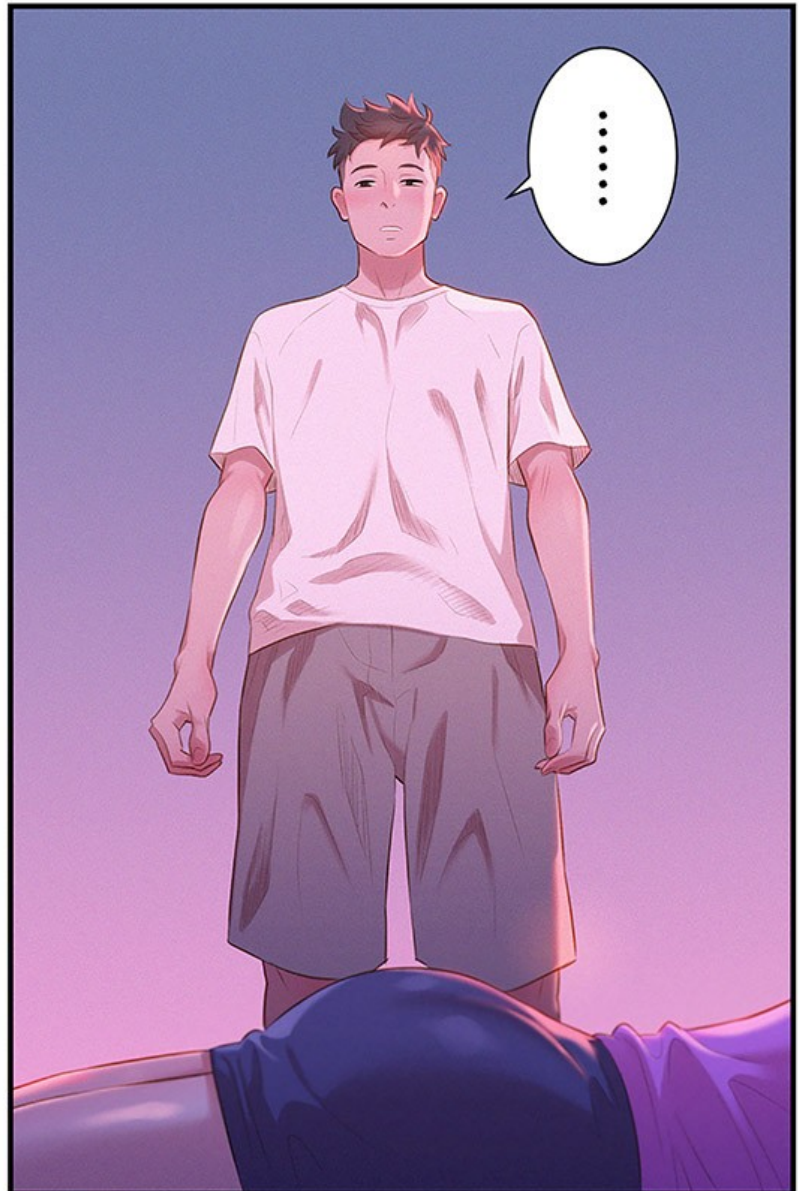
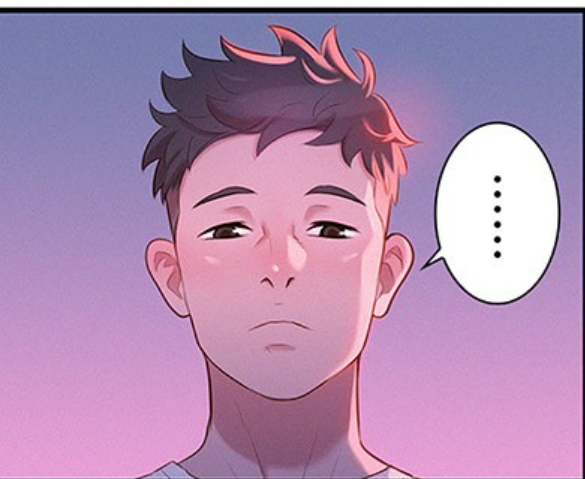
あ何だ…
うっかり
寝ちゃったな



あ…
う…む…







実家から
送られてきた野菜を
渡しに行った！

いるー？

心の奥底に
葬ったはずの記憶

ムヒ...

俺の記憶の中に
深く封印したあの日...

あつ...ん

はううう！

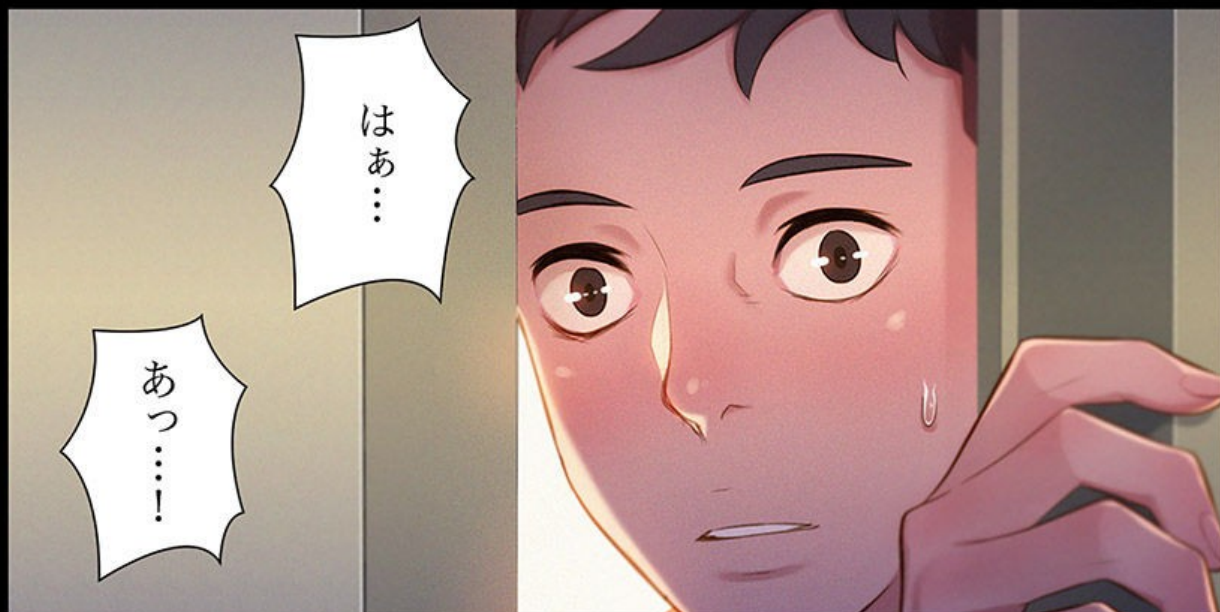
ズググ

ズググ



決して忘れられないあの表情

あんっ！



はあ…

あっ…！



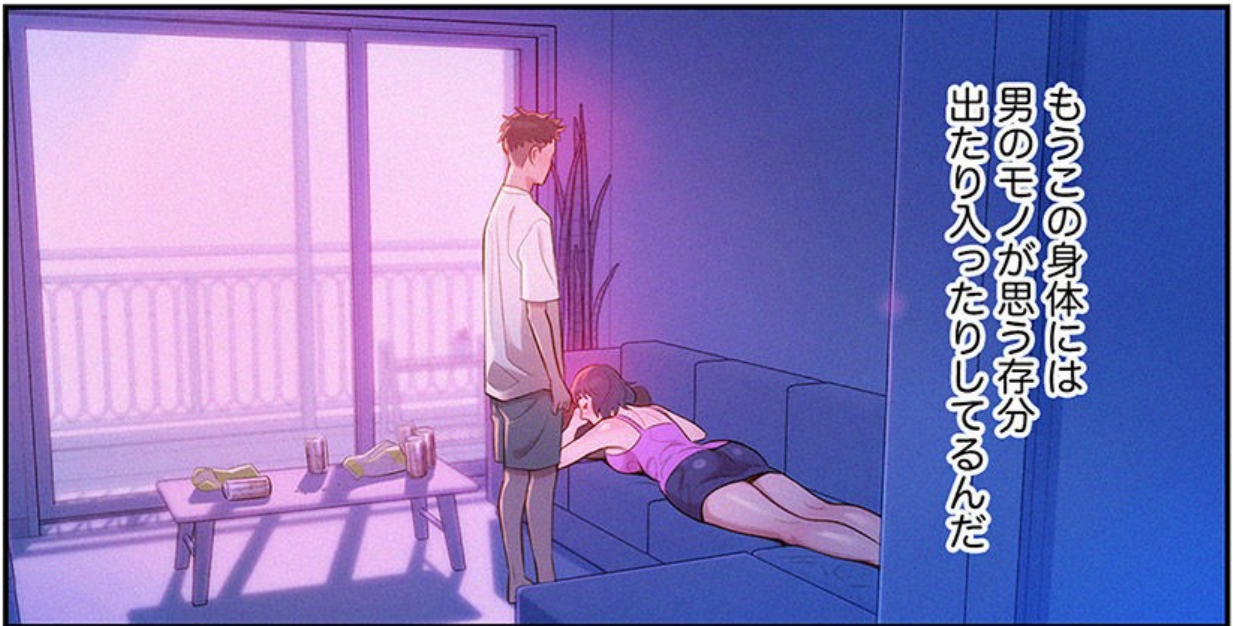
んっ…

ん…

俺の知らない
由紀さんがそこだった



そう……由紀さんは男と
セックスをした事があるんだ！



もうこの身体には
男のモノが思う存分
出たり入ったりしてるんだ



はあ…本当に
ぐっすりだな…
これはまだまだ
起きないな…



何で今日に限って
こんなにエロく
見えるんだ…

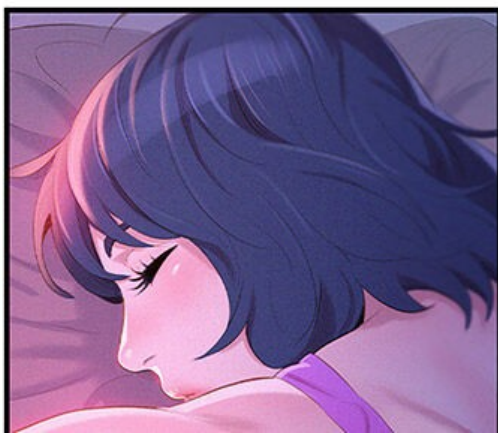


…由紀さんには本当の
セフレがいるかもしれないけど

〜み



由紀さんのこのナカに…







はあ…本当に柔らかい…
由紀さんのお尻…



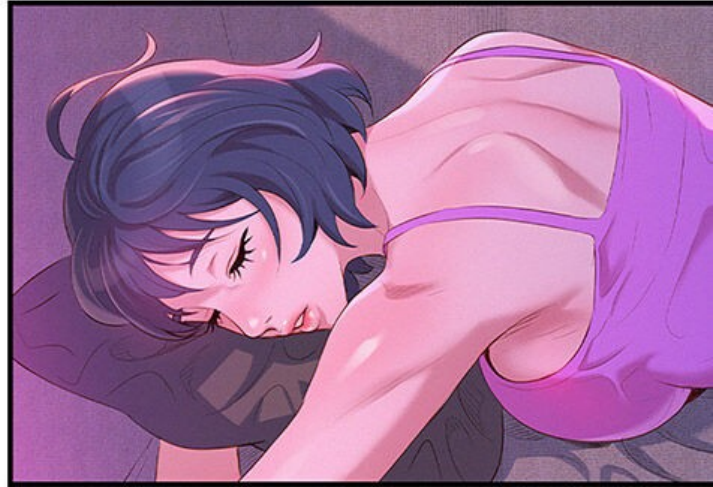
パンツの中に手を入れて
一度だけ触ってみたい

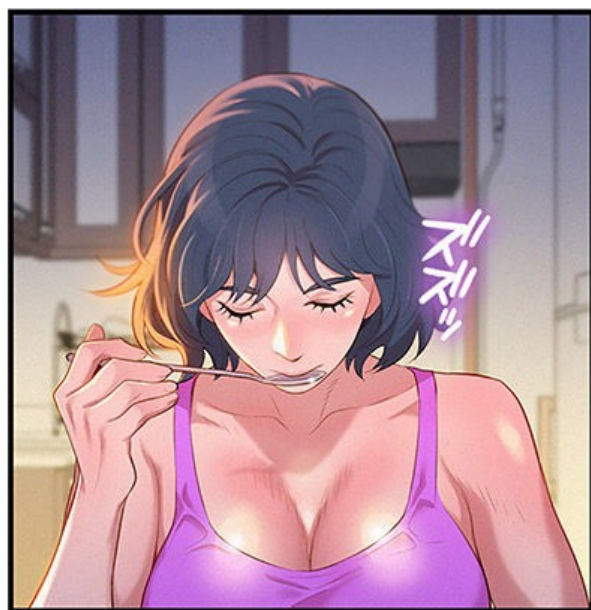


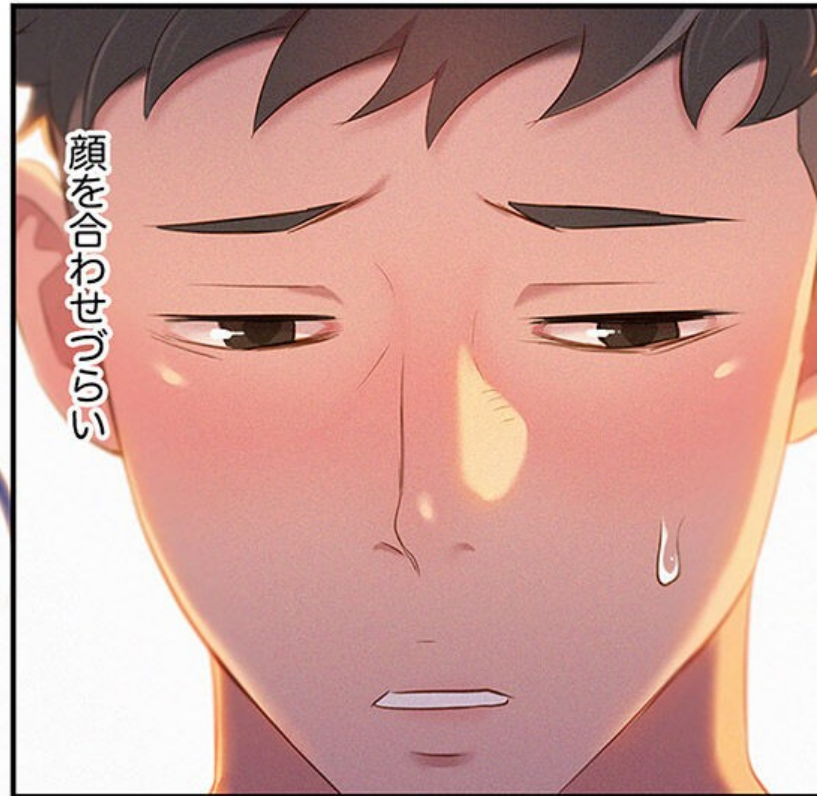
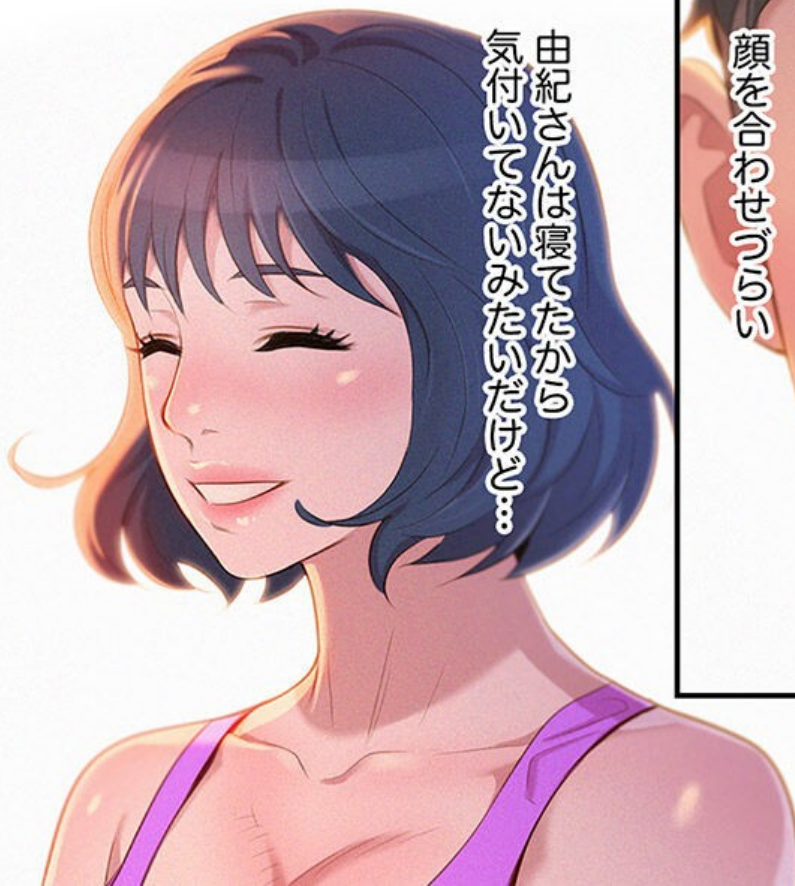
あんっ…

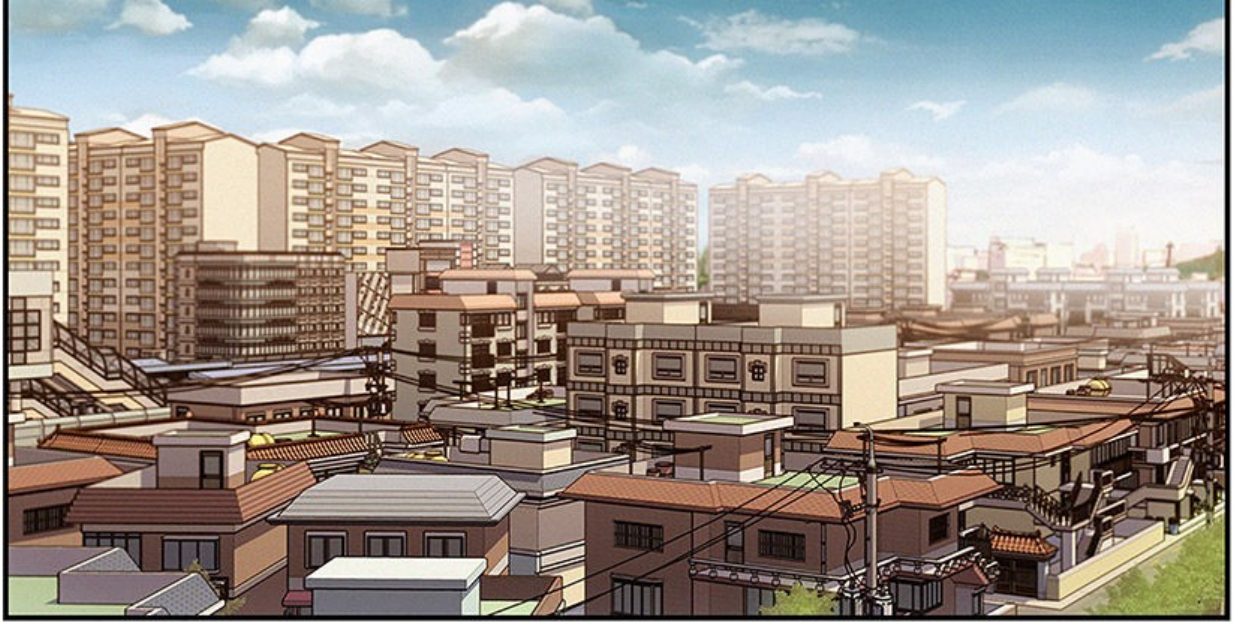
パンツがびしょ濡れになるまで
思う存分掻き回して…









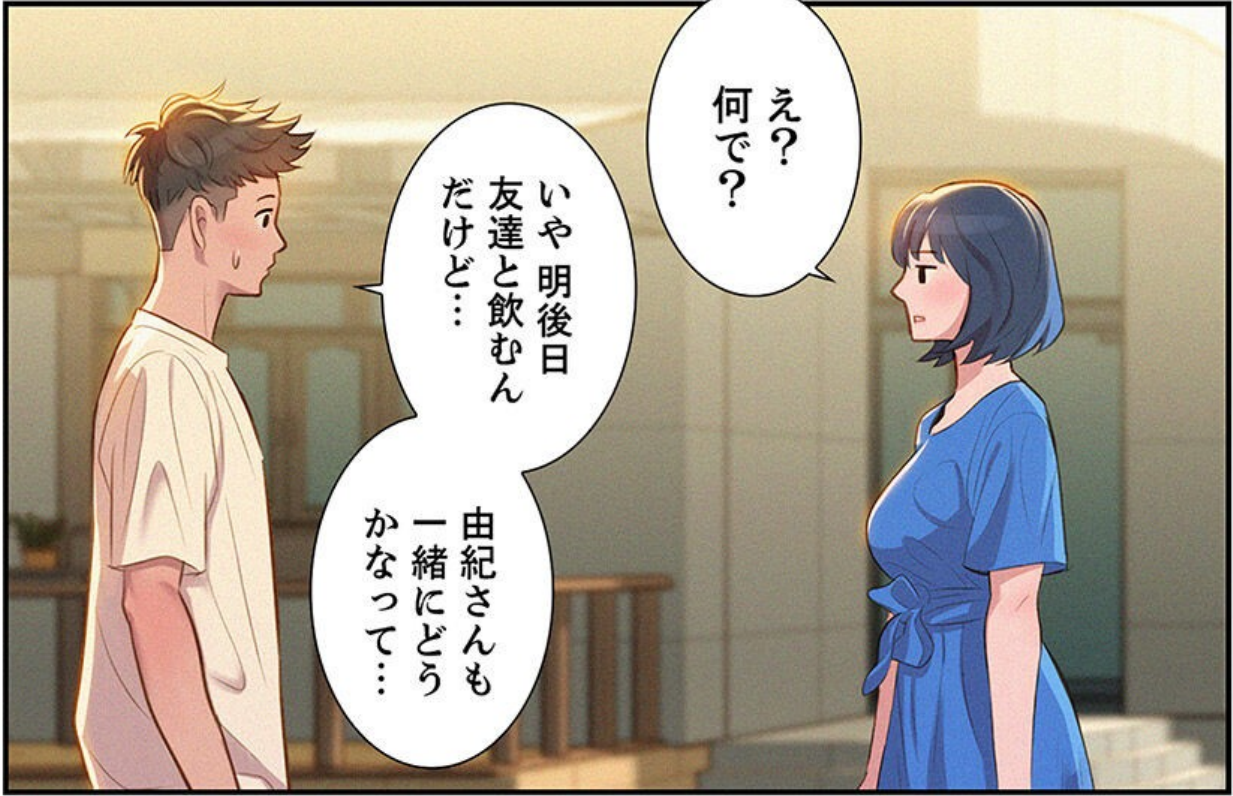




あのさ…明後日
時間…ある？



いやだから…
その…



え？
何で？

いや明後日
友達と飲む
だけ…

由紀さんも
一緒にどう
かなって…

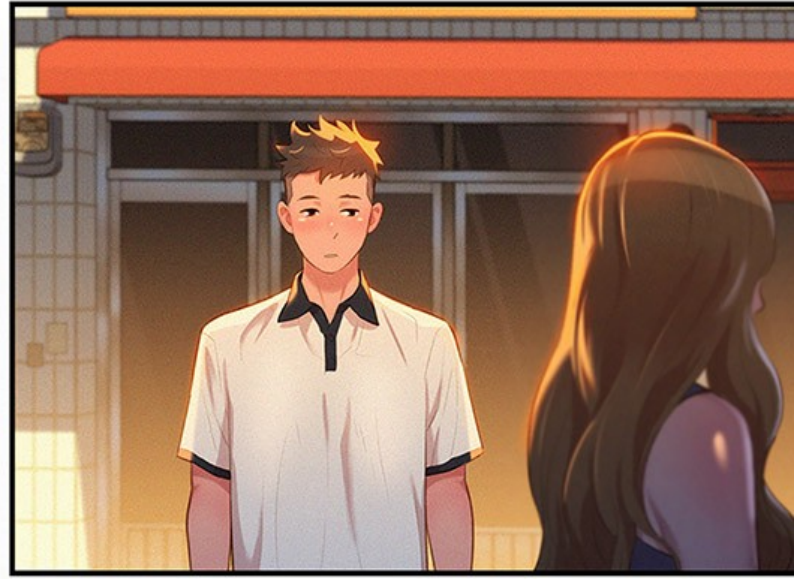


あ…うん！
食べたいもの全部
奢るよ



何か
美味しいものでも
ご馳走してくれるの？







そっか…まだ俺の事
知らないんだ…
どうしよう…



あっ…
本田のセフレじゃん！
写真より
キレイ…



尻のライン
やばいな…
すげー…



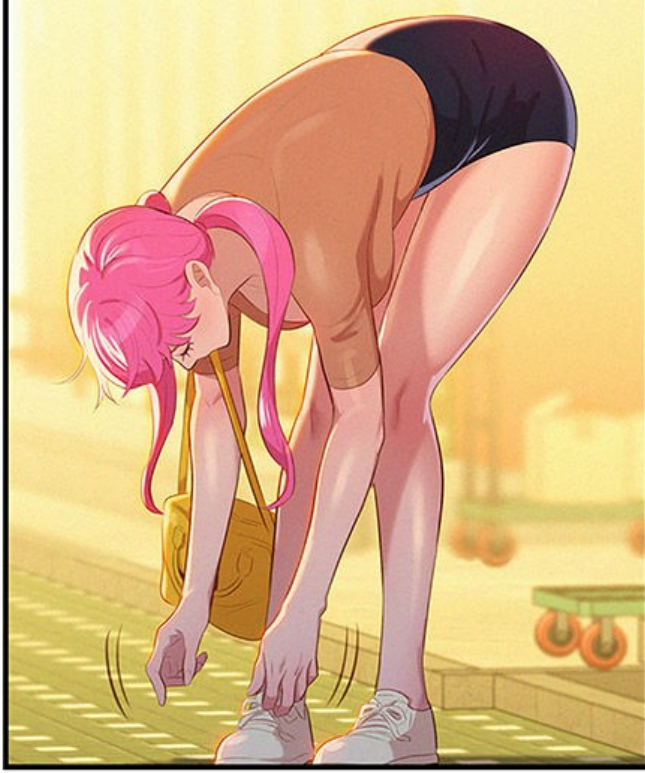
うっ…生で見ると
すごいセクシーだ…
胸も大きい…

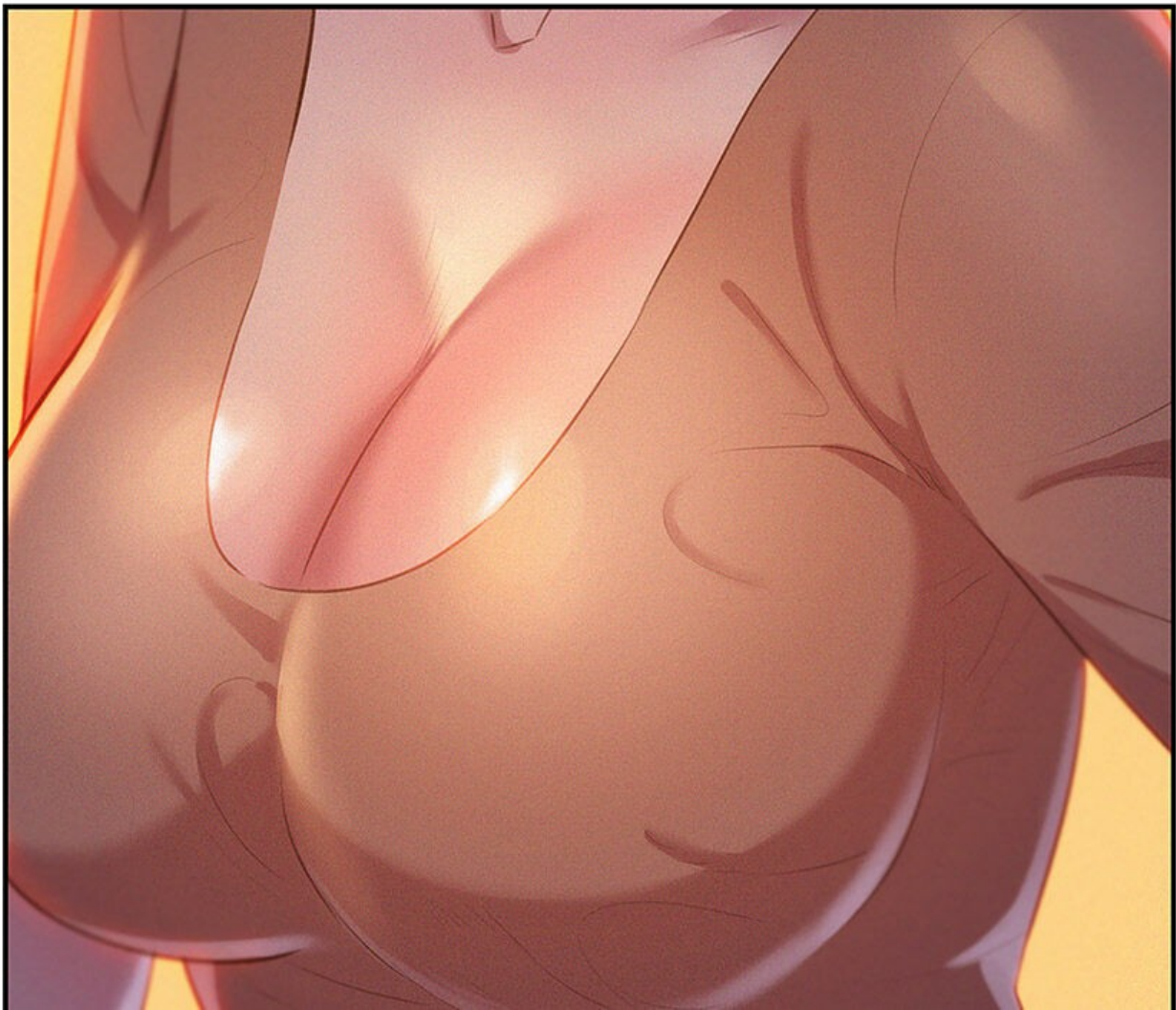


本当にこんな子と
セックスしてる
のかよ…



本田のやつ…
一体どうやって
こんな子とセフレに
なったんだ…

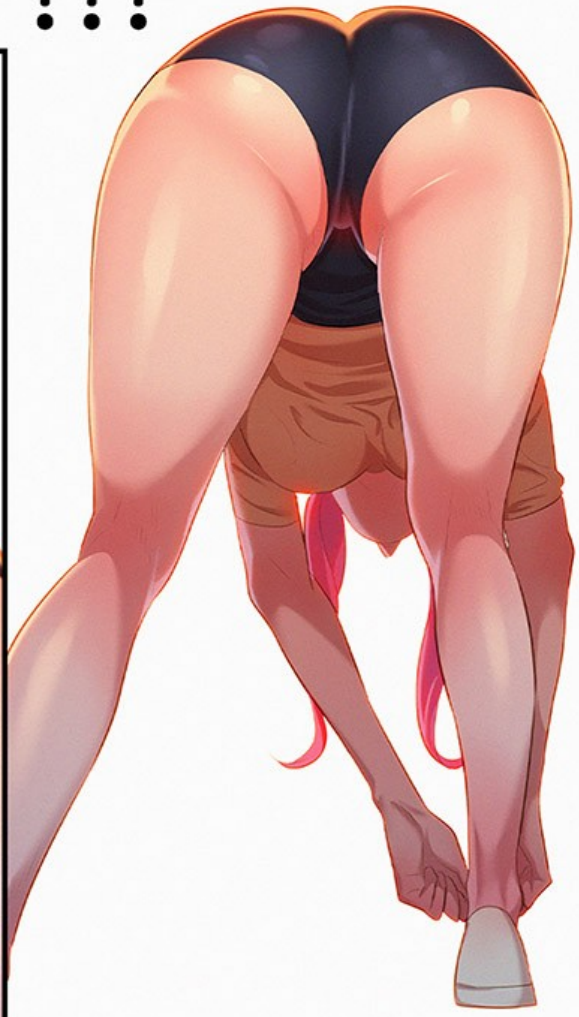
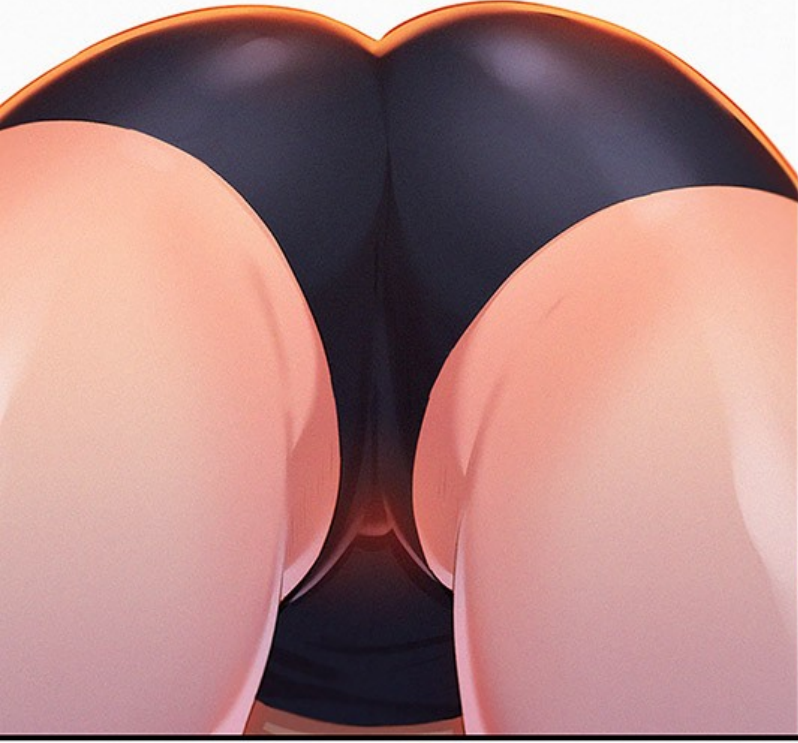






!!!

ああ…頭が
ぼんやりする…



このお尻はおもいらしく
挿入してみたい…!!

やばいな…
何にも考えられない…

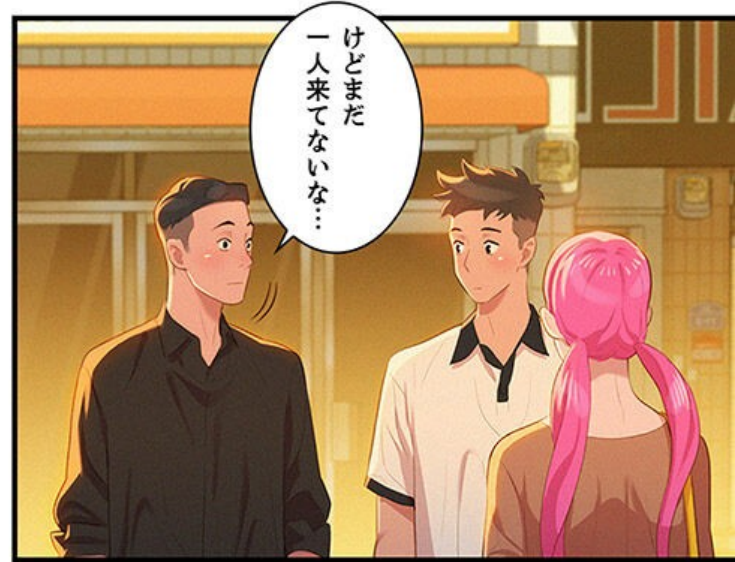




思い切り
この子とセックスを…









へえ…
大当たりじゃん…



最初はこいつ
地下鉄もまともに
乗れなかったんですよ



ふふ…私と会った時も
本当に田舎くさくて
そこもかわいかったのよ？



俺が連れ回して
東京での生き方を
教えてあげたんです





花菜ちゃんって
性格も良いよなあ



あんなに美人で
性格の良い子と…



まあ今まで
何人も告白して
玉碎してるしな



けどお前
本当に花菜ちゃんと
セフレなのか？



セフレがいる女は
遊んでそうな女で…

あんな普通の子は
セフレを作るわけ
ないってか…？



おいおい
そんな簡単には
教えられねーよ



いいや
そうじゃなくて…

どうやって
花菜ちゃんと
セフレになれたの!?



い…いいだろ
教えてくれよ

じゃあ後で
ちゃんと頼むぞ

え…
う…うん…





絶対に隙なんてないし
男達も諦めムードに
なってたんだ



だけど
ある日のサークルの
飲み会で…

酒をたくさん
飲んだ日
あったんだけど



俺はとっくに諦めて
ただ近くで身体を觀賞して
満足してたんだけどな



あのお尻を見てたら
何かが湧き上がって
きたんだ

俺もちょっと
酒に酔ってたし
おかしかった…



花菜は酒が
弱くて壁に
寄りかかってたんだ



今思い出しても
何であんな事したか
わからないけど…



俺はただ
背中でもさすって
あげようと…



花菜が
こっちを向いた時は
まじで人生終わったと
思ったよ



だけど
気付いたら
花菜のお尻を
叩いてたんだよ



まさかそれが
セフレになる鍵だとは
誰も思わないだろうな

どういう事？
それでどうなったの!?



ん…
達也くん…?





秘密の鍵さえあれば
花菜の身体はずっと
ノーガード

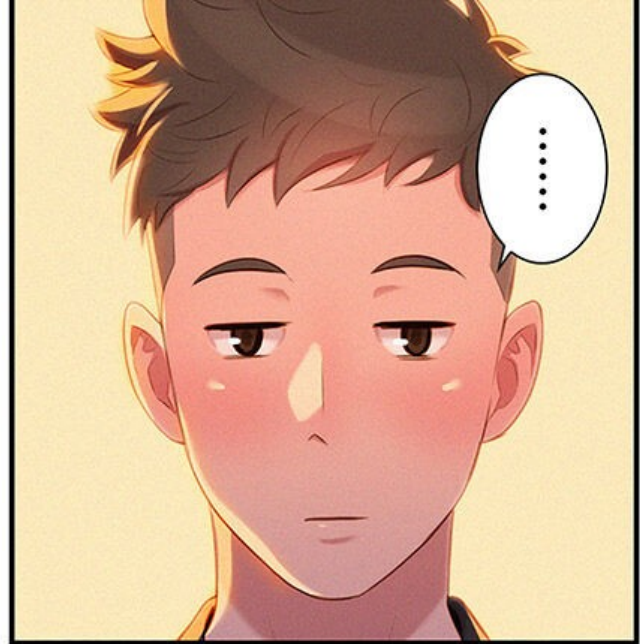


あの日以降は
簡単さ



そうするうちに
俺達はセフレの関係に
なったのさ

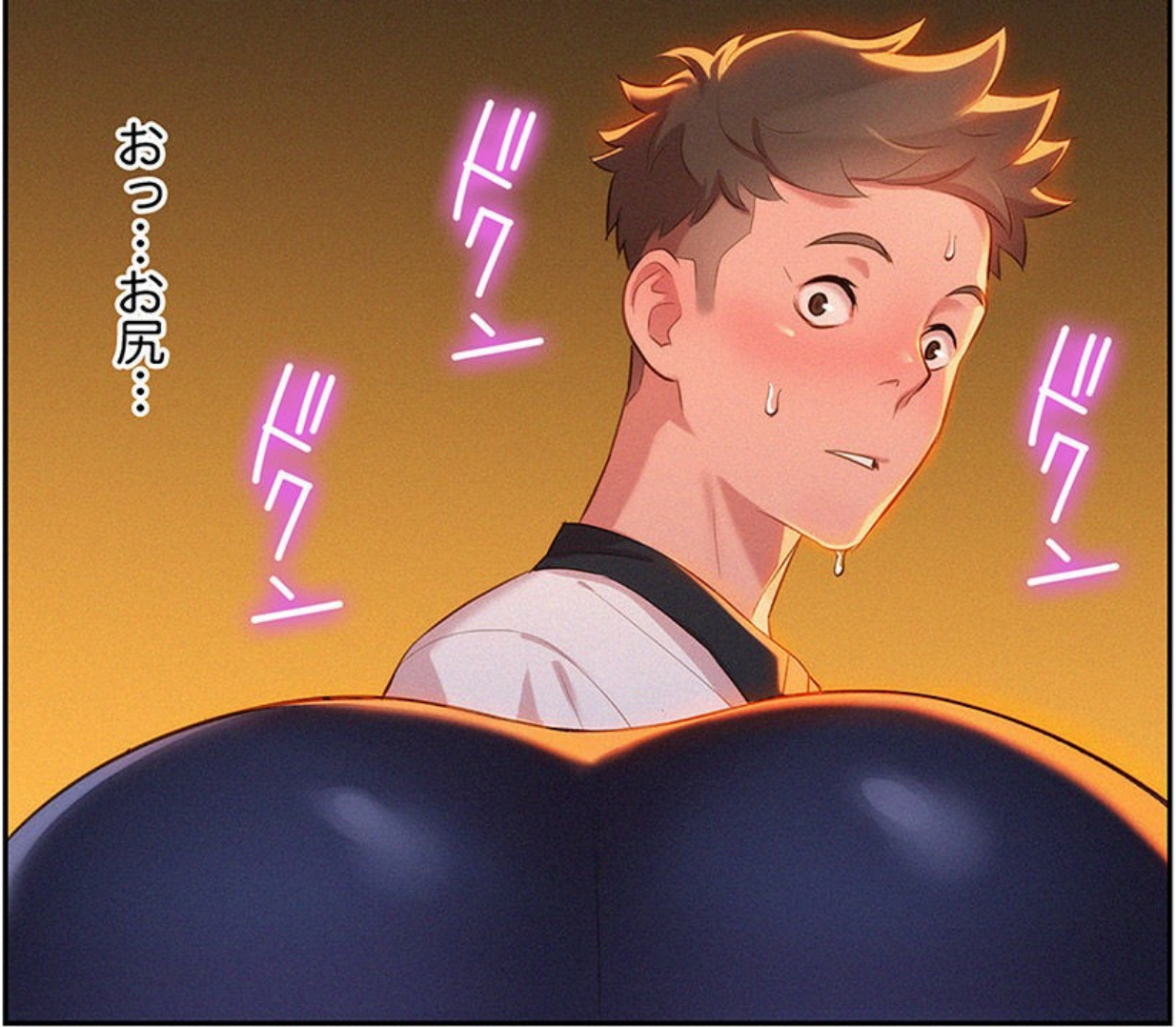
あうん！











おっ…お尻…



このお尻を叩いたら…
セックスできるのか…？







その青年部の
大学生の男に
片思いしたんだって

合唱をやってた
らしいんだけど



優しくて誠実で
頭も良くて…

それでいて
カッコよくて
好きだったって



いつも花菜は
子供扱いされて
ばかりみたいでさ

とにかく二人は
仲は良かった
らしいけど



面と向かって
告白もできなくて
ずっと片思い
だったわけだ

まだ花菜が
高校時代の話だ



ケータイを見ながら
友達を待って
いたら：

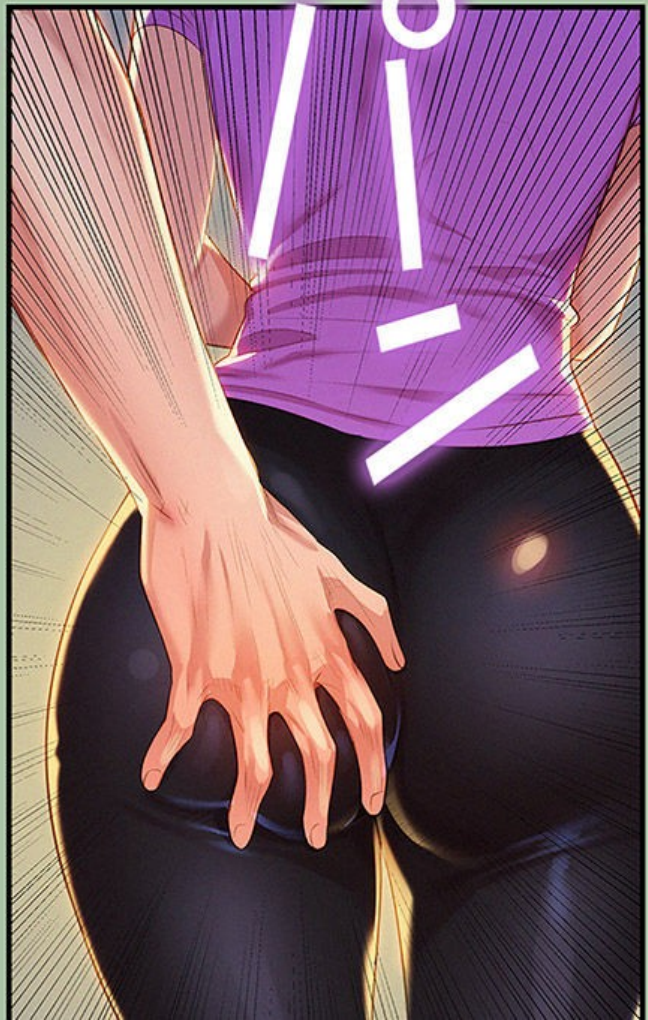


ある日花菜が
レギンスを履いて合唱に
行った時だった

普段はあまり
そんな服装はしない
らしいんだけど



その男がお尻を
ピシャッと叩いたらしい







その感覚が
どうしても
忘れられなかった



手の感触が
自分のアソコまで
伝わってきたとか何とか



お尻を強調するような
服を着てみたり…
色々アピールしたけど
無駄だったんだって



花菜が教会に行く
理由はたった一つ

その男にまたお尻を
叩かれるためだ



けどあの日以後
その男は二度と
花菜のお尻に手を
出さなかつたらしい



そうすればするほど花菜は
お尻を叩かれる
想像に浸るようにな
ったって言うから
面白い話だよな



長い片思いを終わらせようと
高校卒業前にその男に
告白したけど…



そして大学生に
なった花菜は



付き合ってる
人がいるって
フラれたんだと





はあん

そろやって花菜は
セックスの度に
片思いをしたあの男を
思い出してたんだ

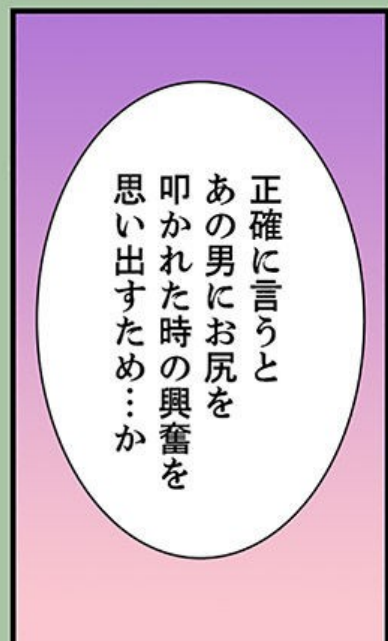


はうっ！



ああ

ああん



正確に言うとな
あの男にお尻を
叩かれた時の興奮を
思い出すため…か



だから花菜は少しでも
好感の持てる男に
お尻を叩かれると
エンジンが掛かるんだ

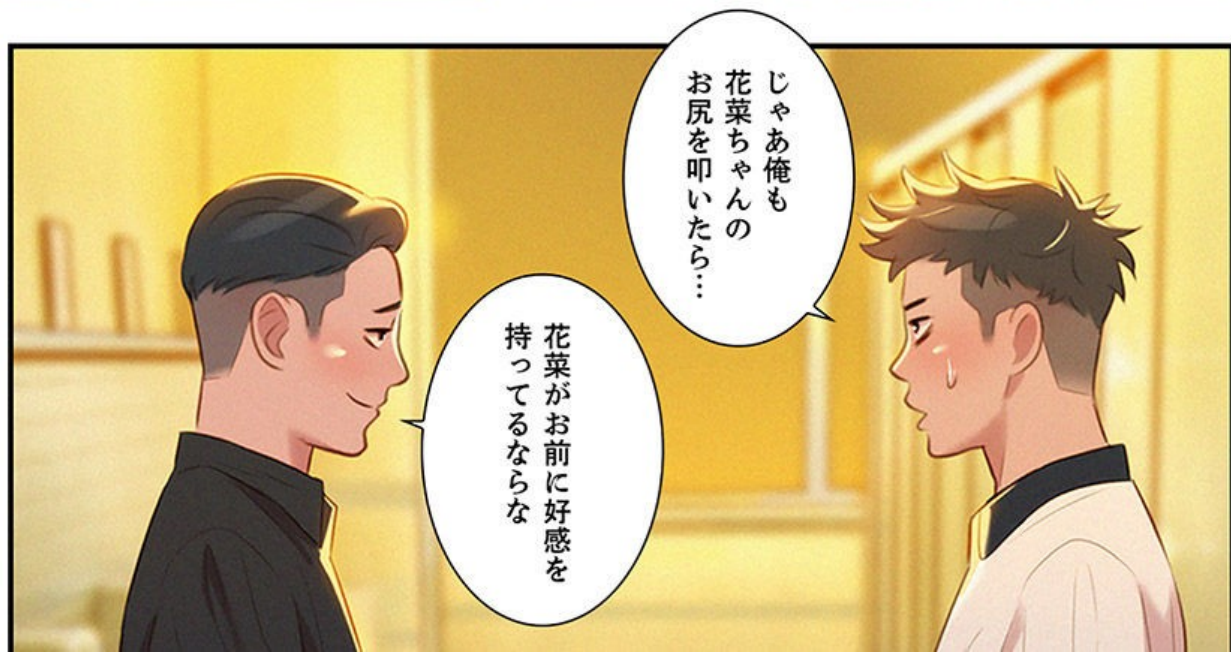
あの感覚を思い出したくて
お尻を叩いた男と
セックスをしたがる



どうだ？
美しい初恋の話だろ？



あ...あり得ない...

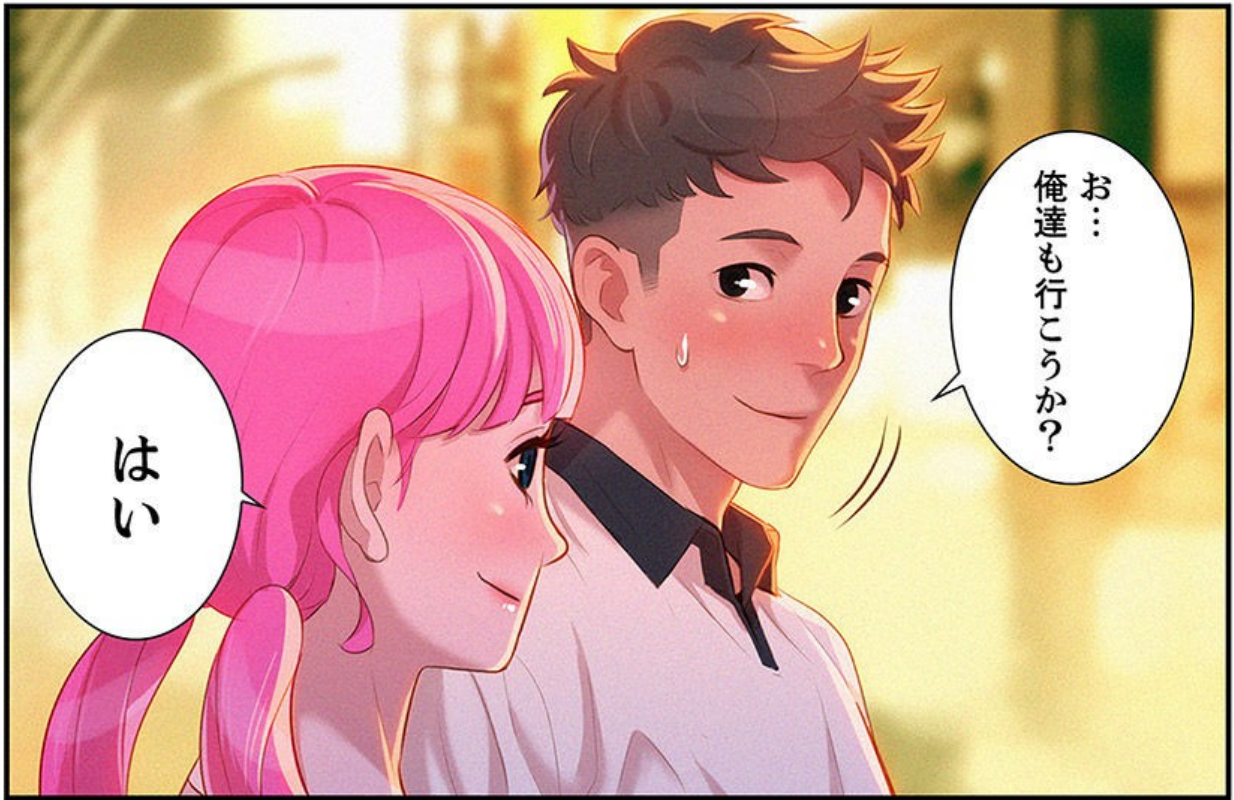


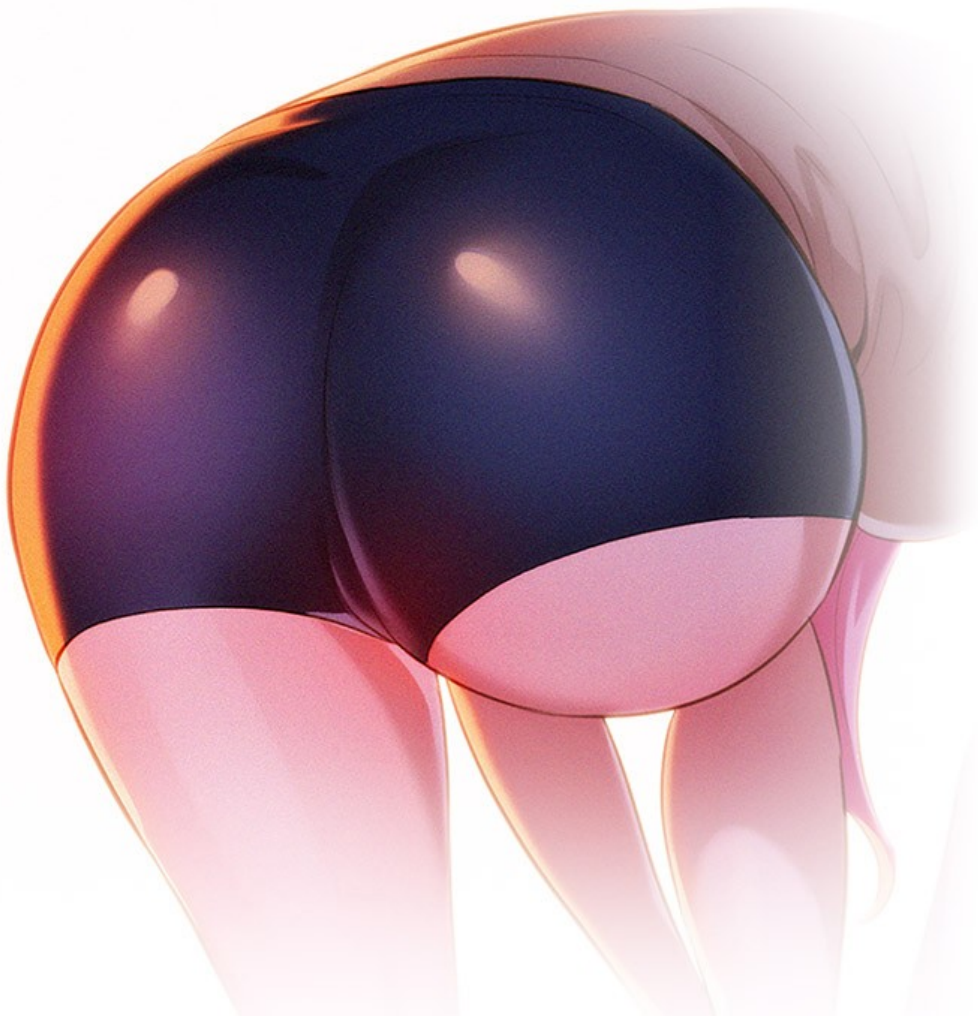
じゃあ俺も
花菜ちゃんのお尻を叩いたら...

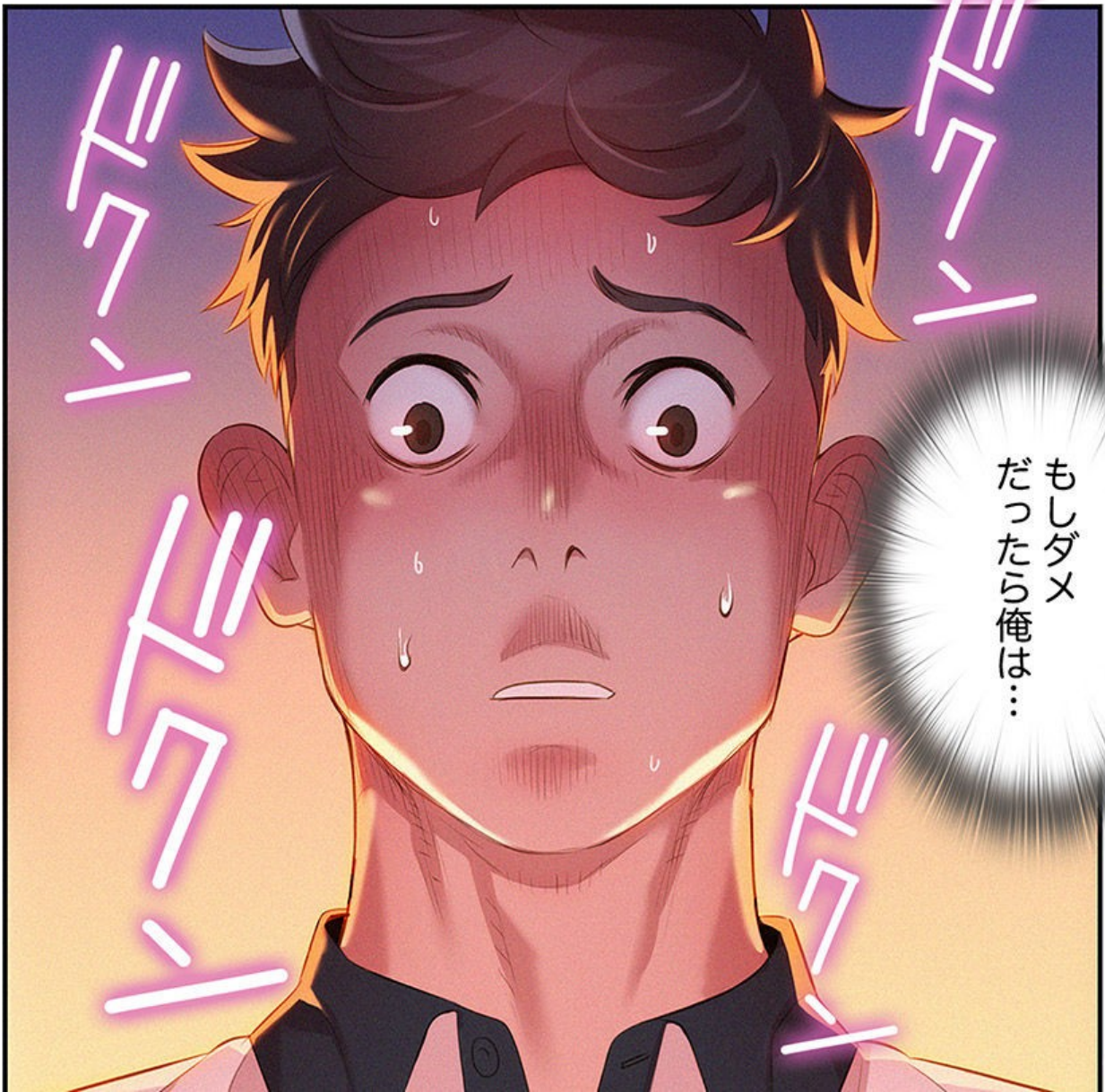
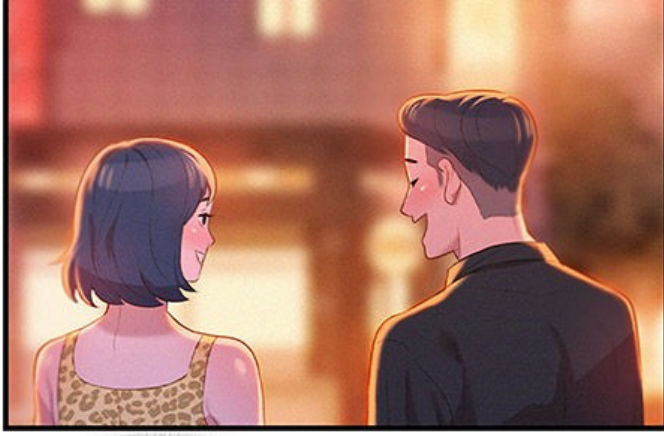
花菜がお前に好感を
持ってるならな

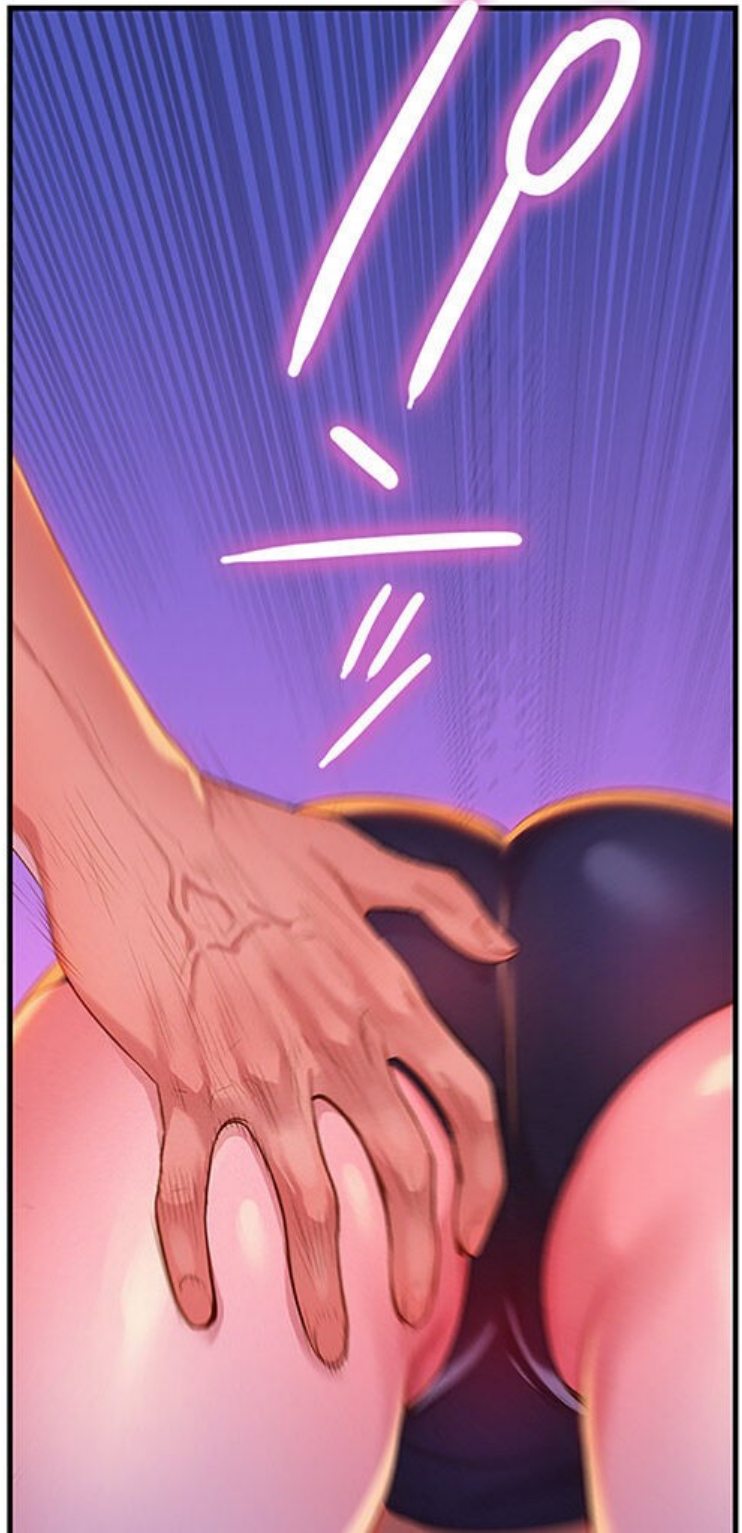
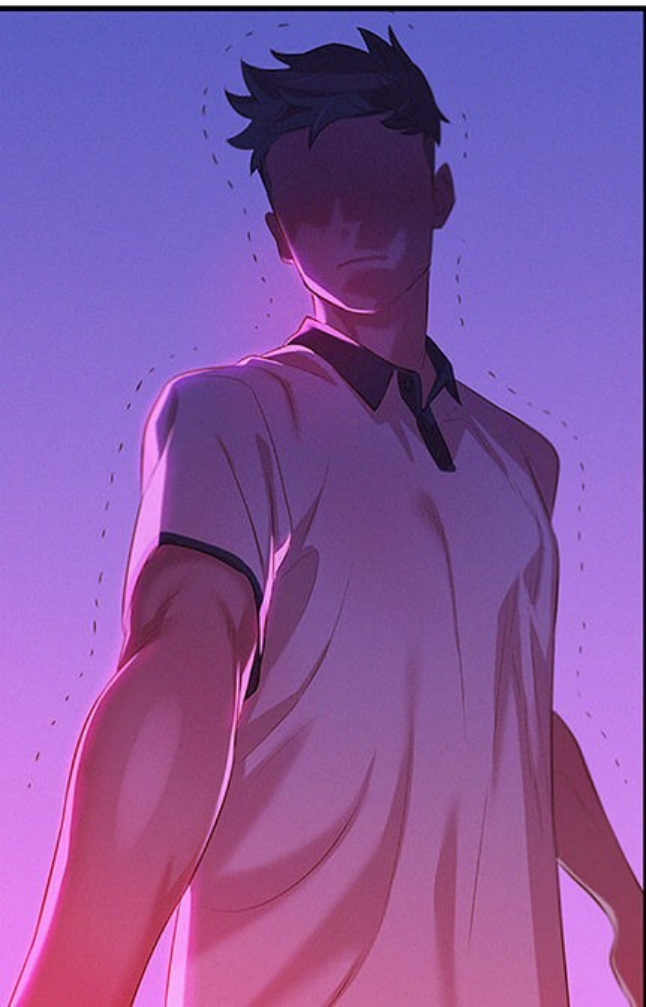
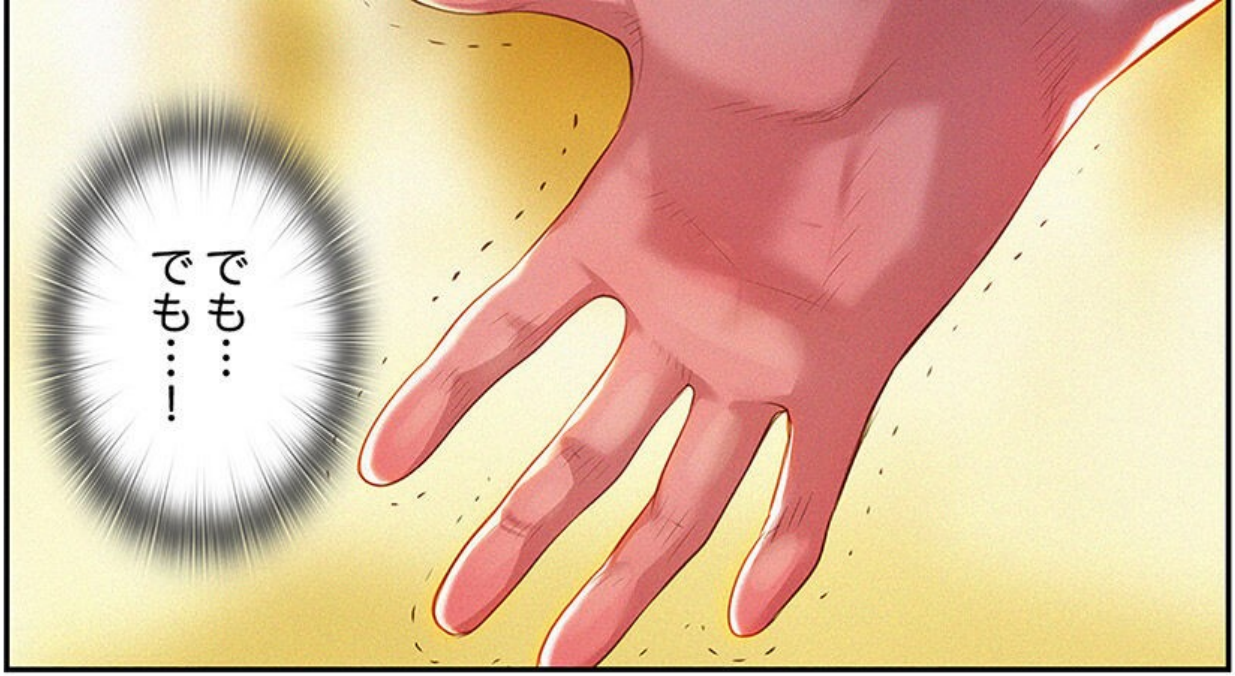


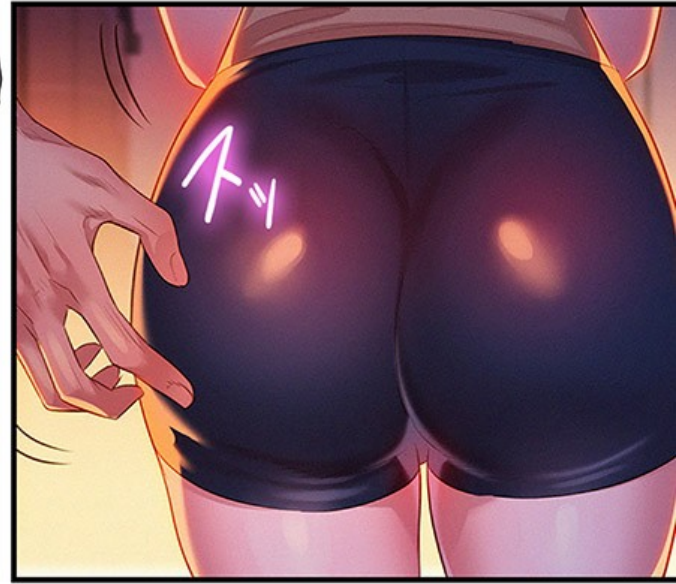






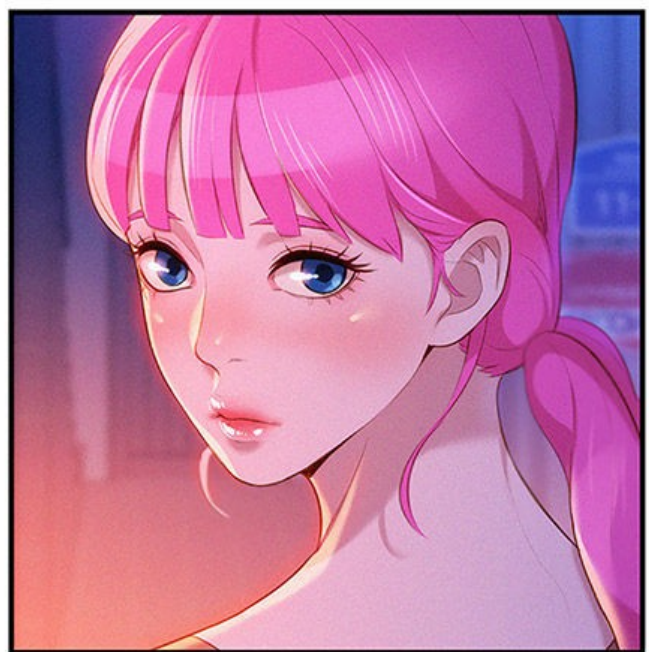






嘘
と
セ
フ
レ

嘘
と
セ
フ
レ





え…行くって
どこだ？

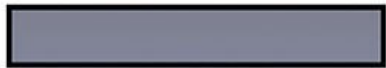
京太郎さんは
真面目そうだから…
早く行きましょう



え…？
やらしい…？

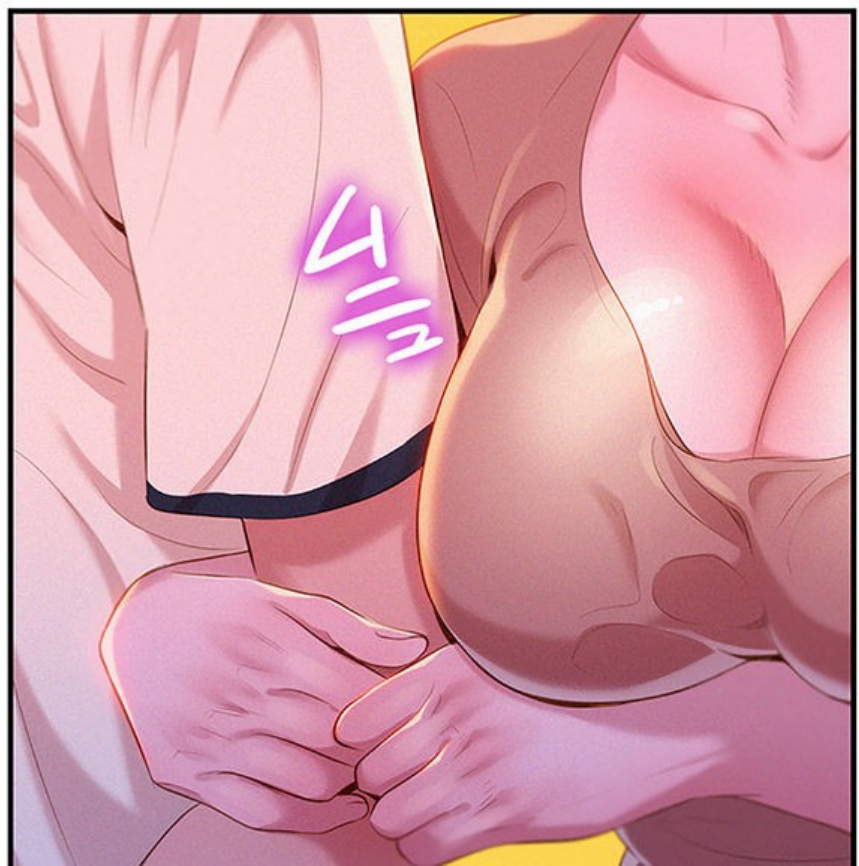
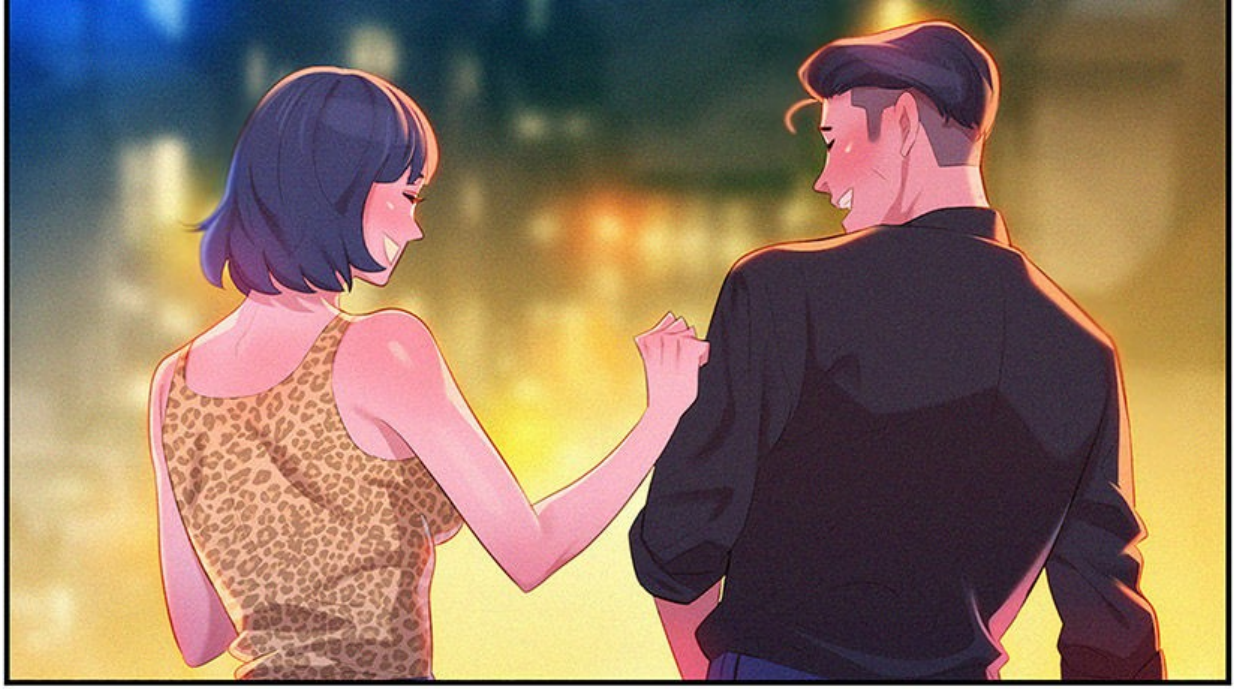


これって…本田の話は
本当だったのか…？



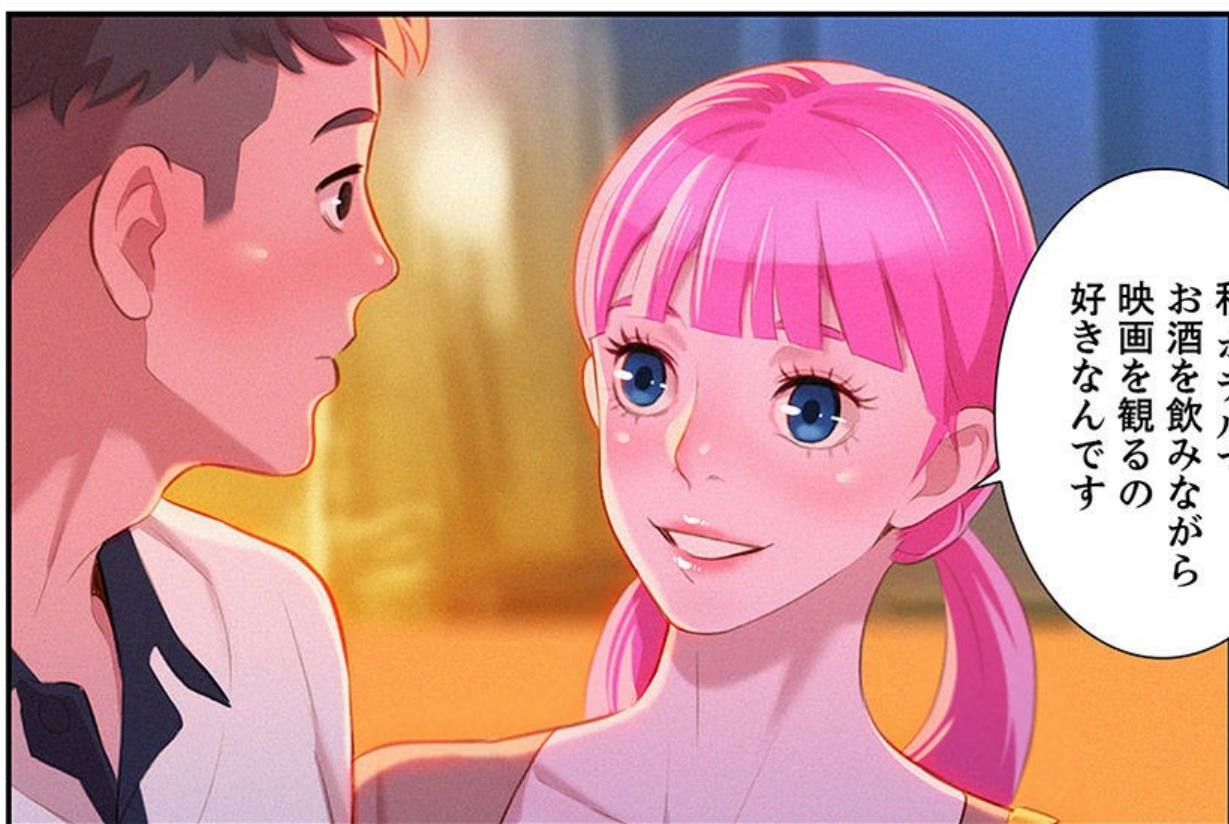
ふふ…あの二人
仲良さそう
ですよ？

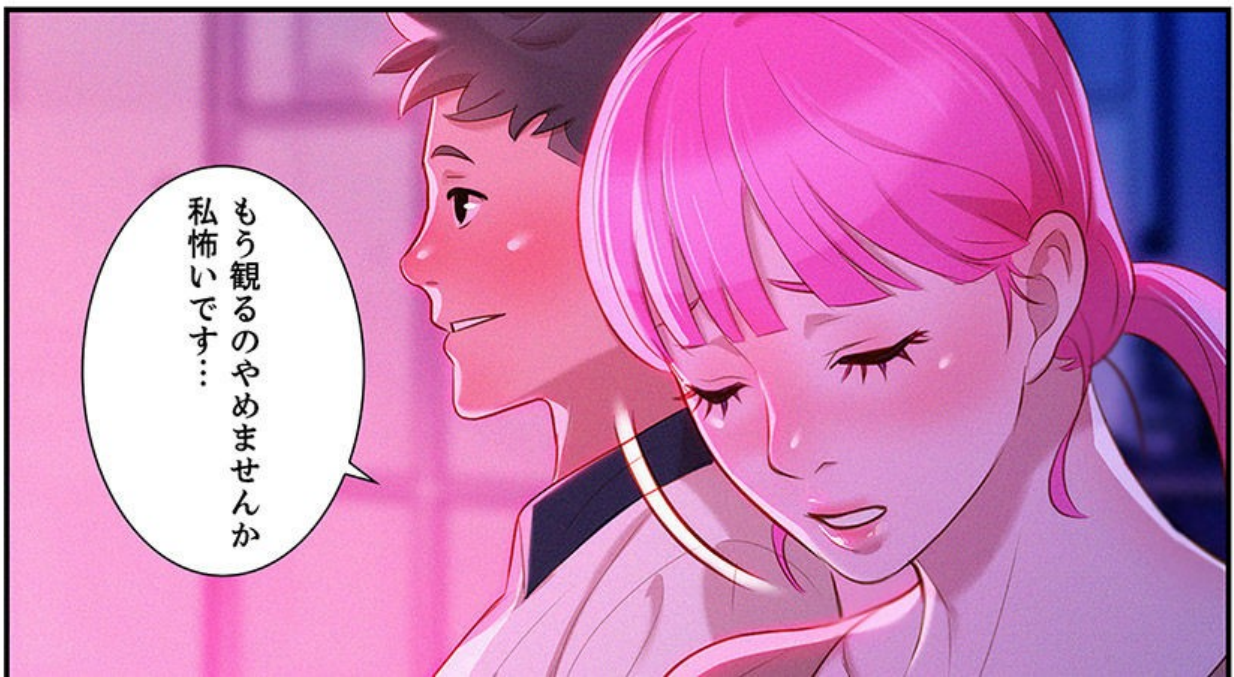
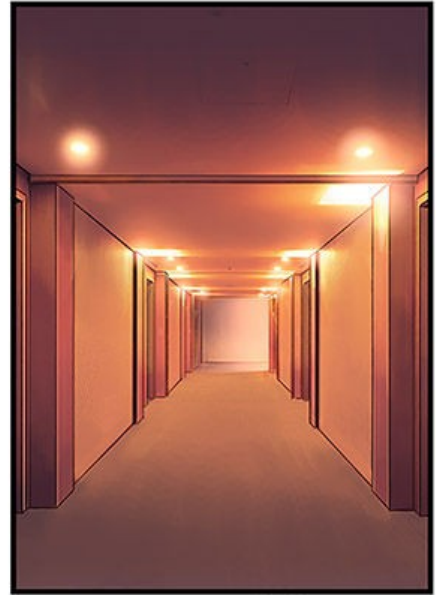
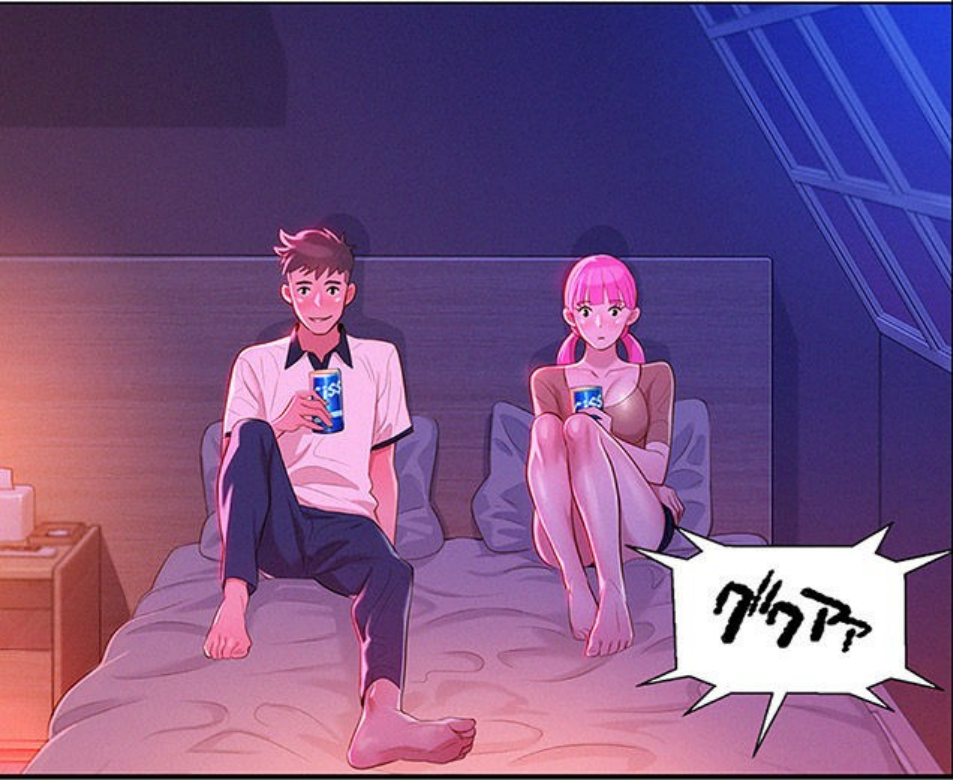


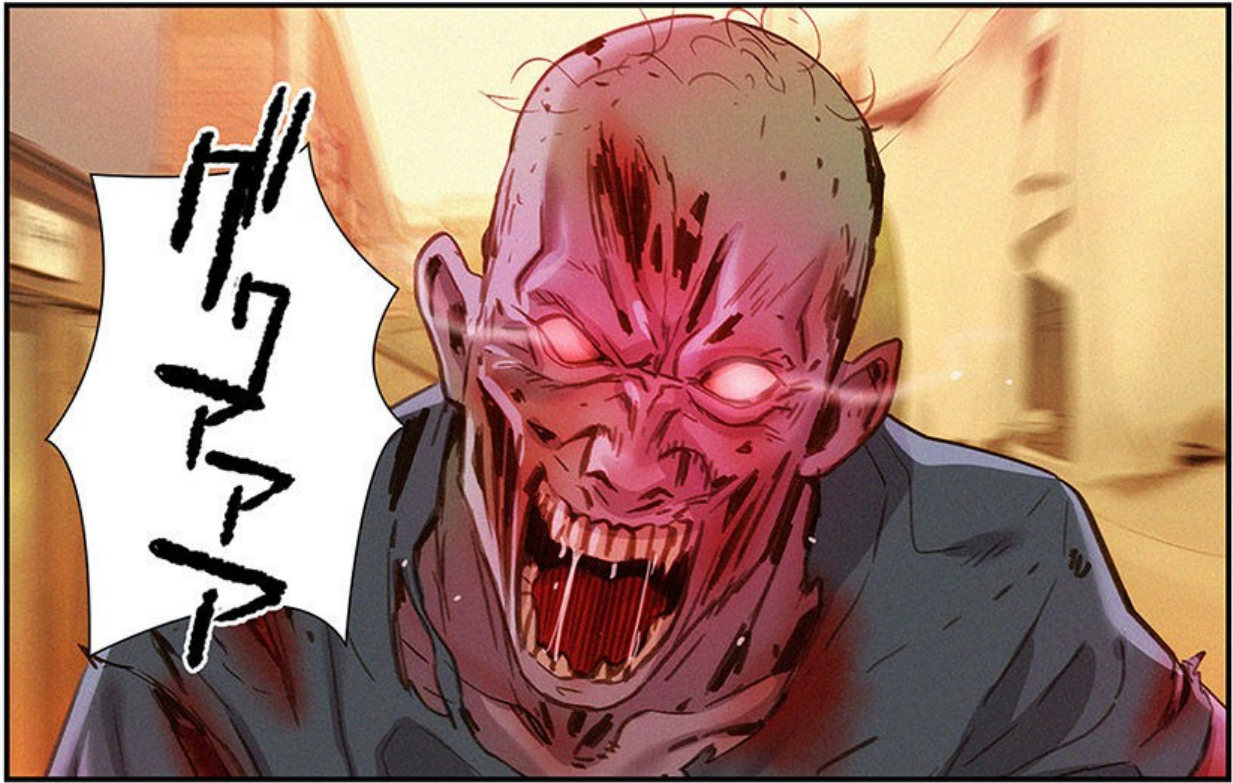




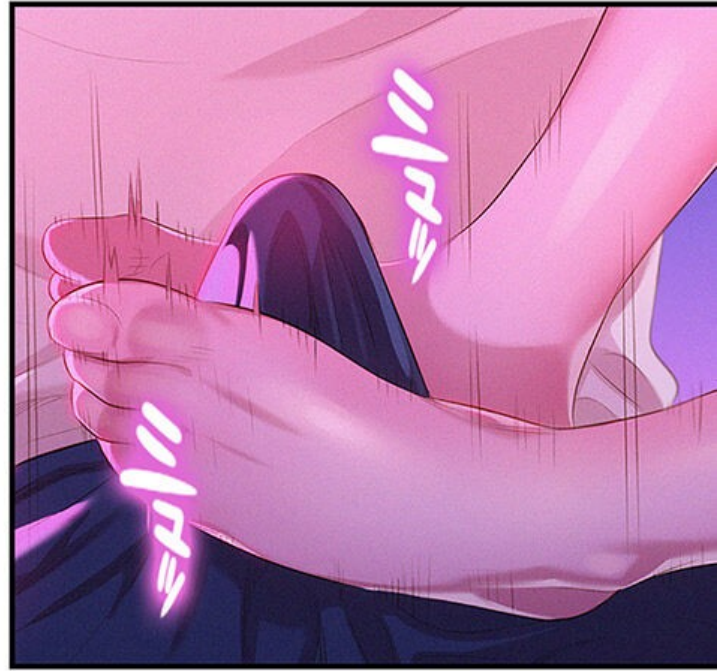














ふふ…
かわいい♡



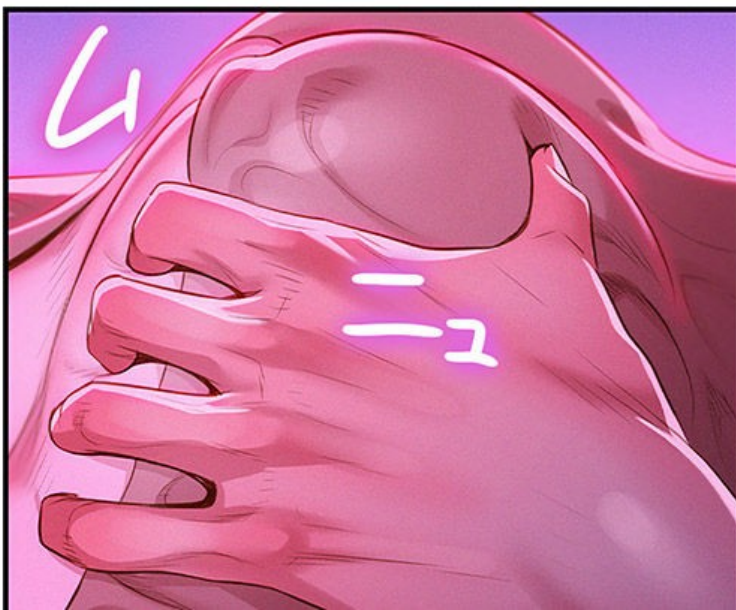
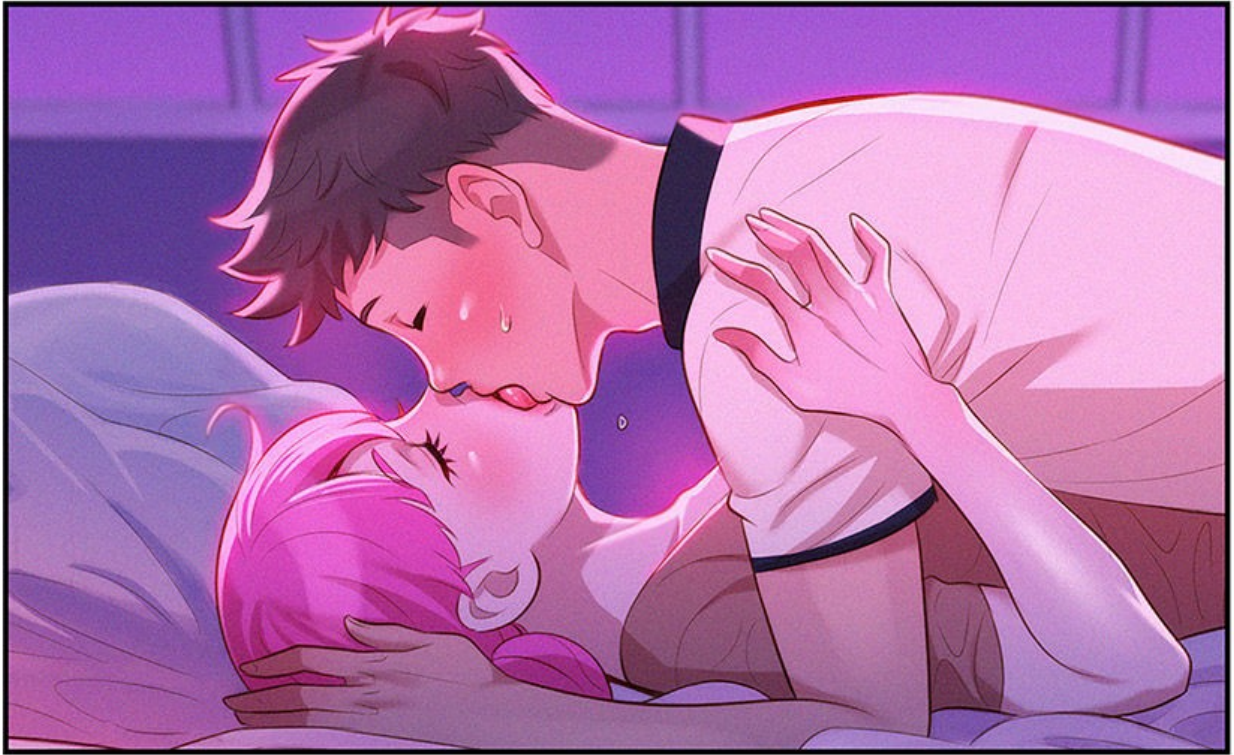
うん…すごい…
こんなの初めてだ

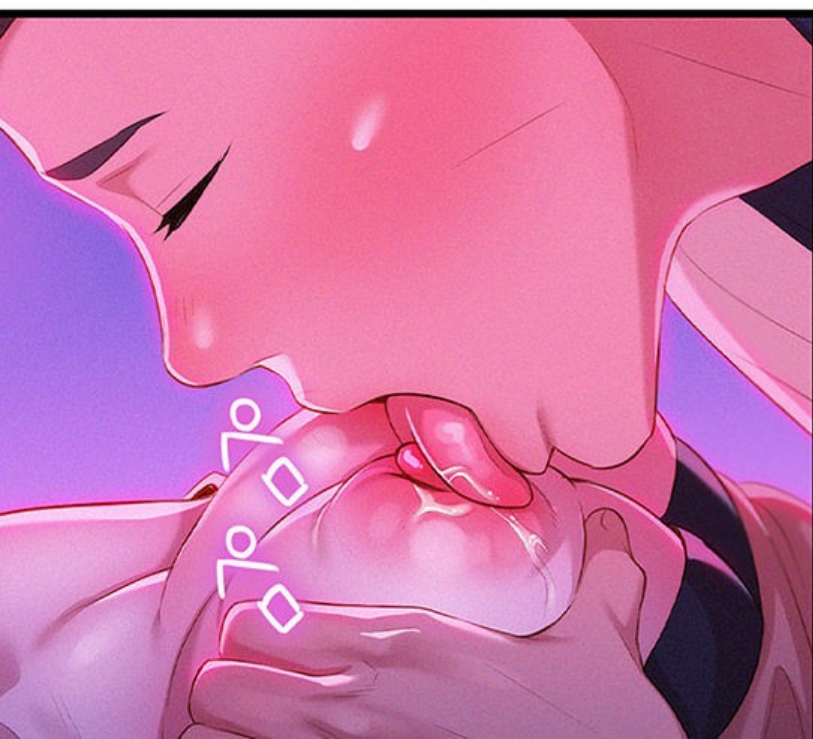


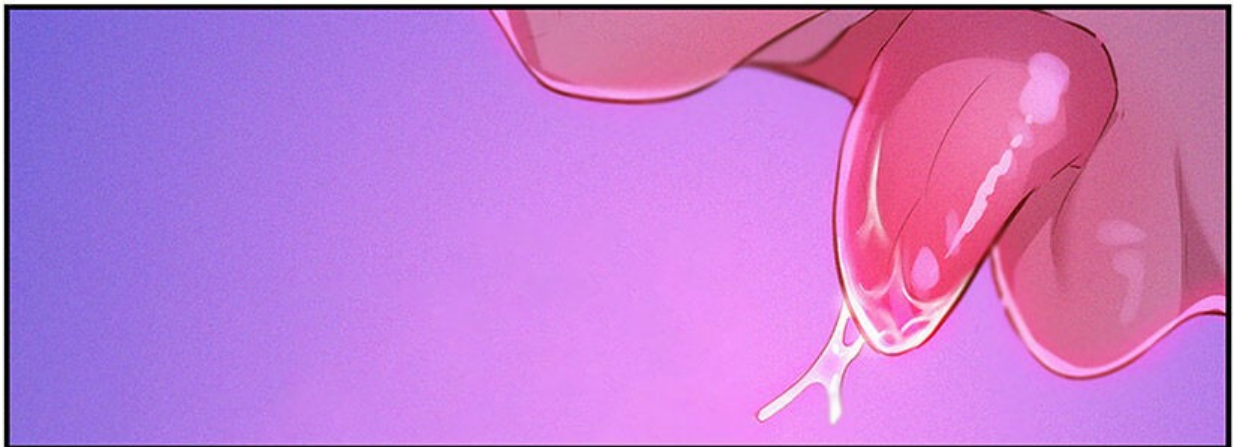
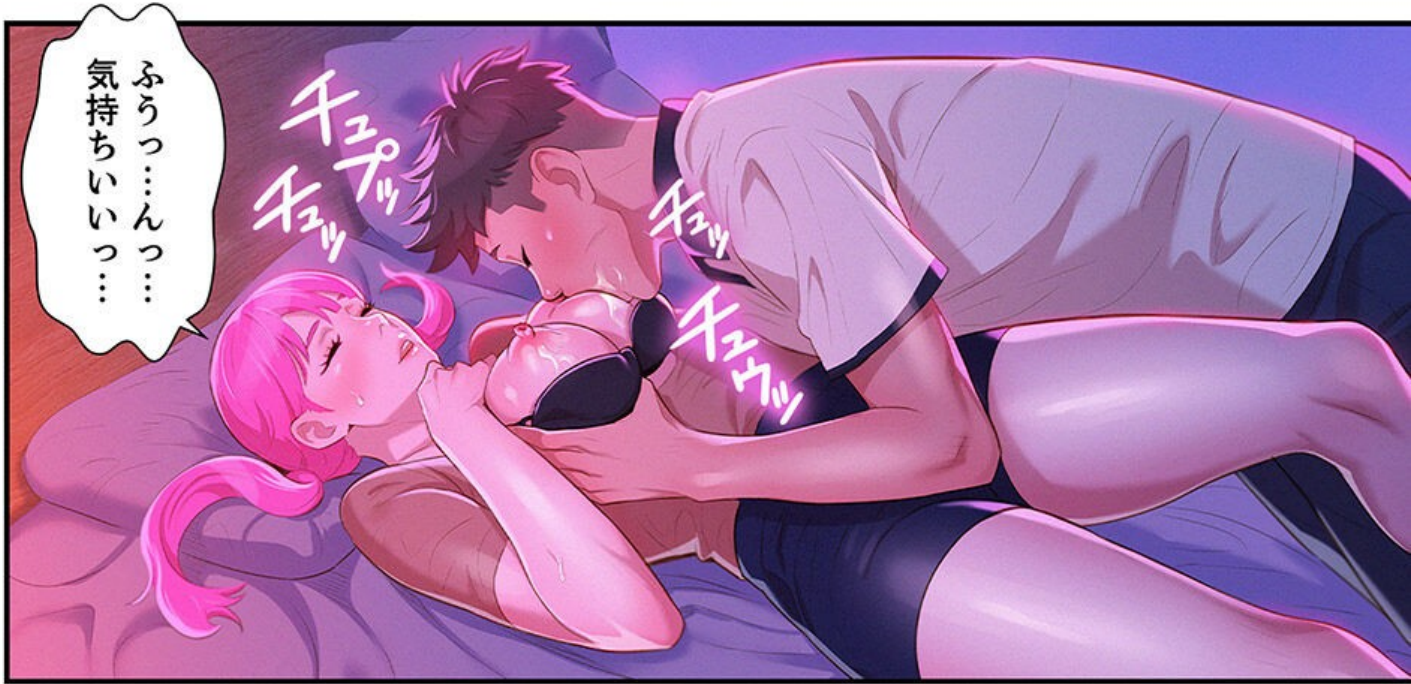
ムムム…



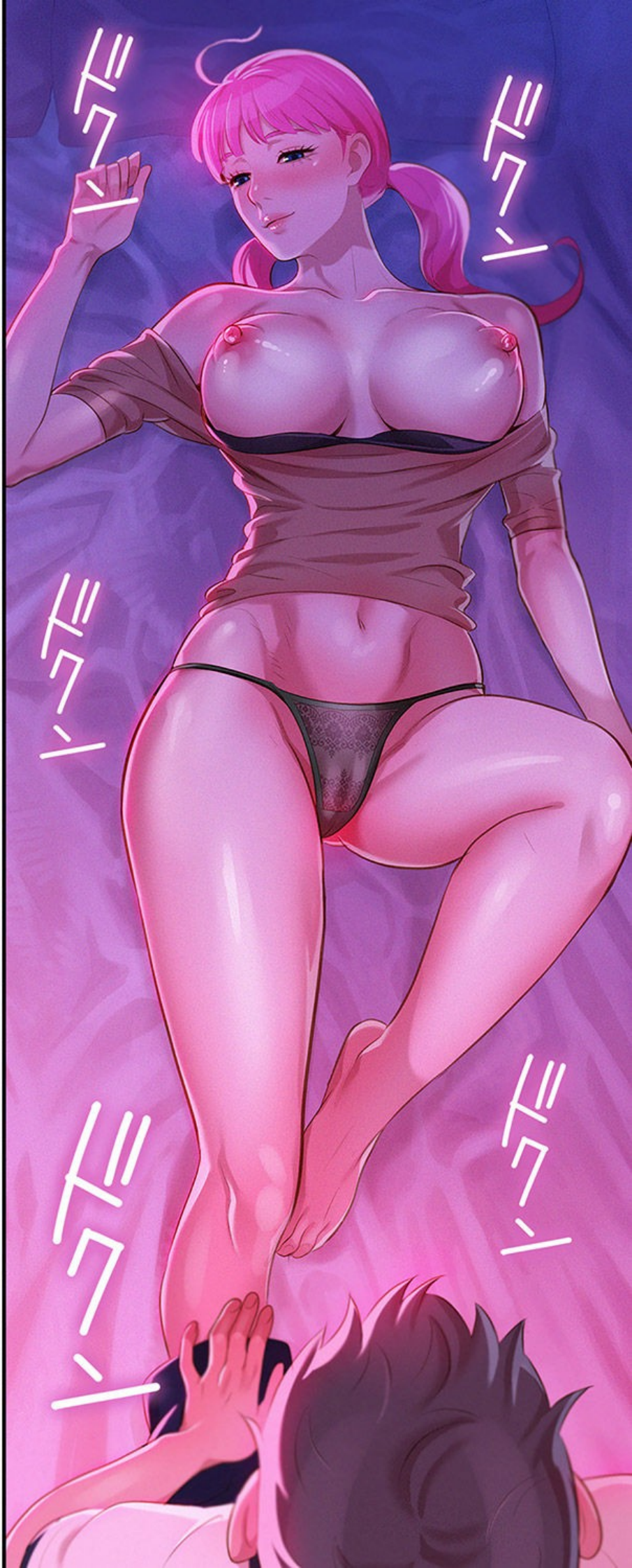
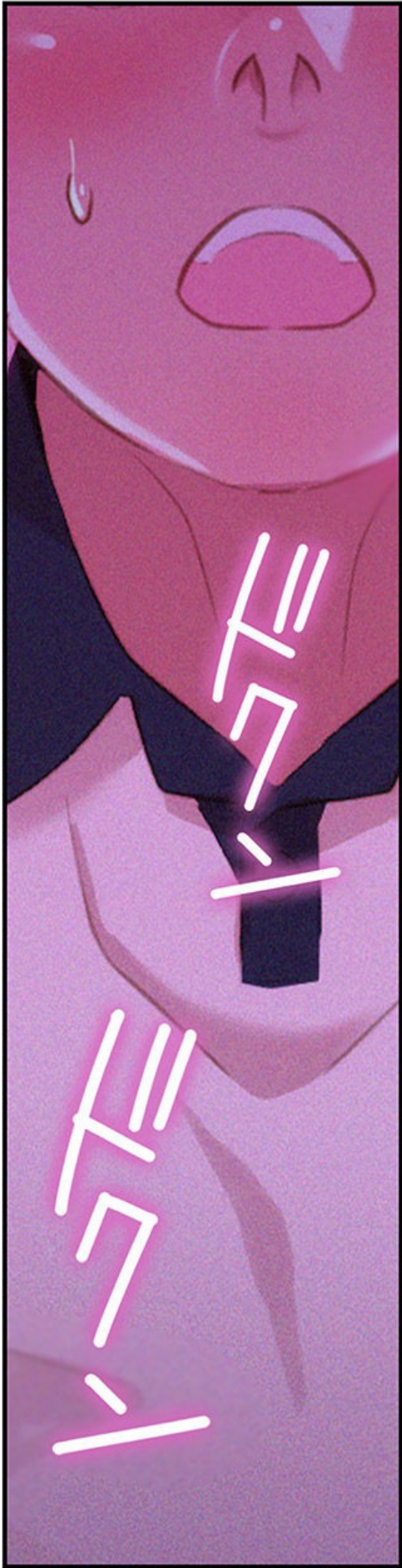
もう
我慢できねー!!











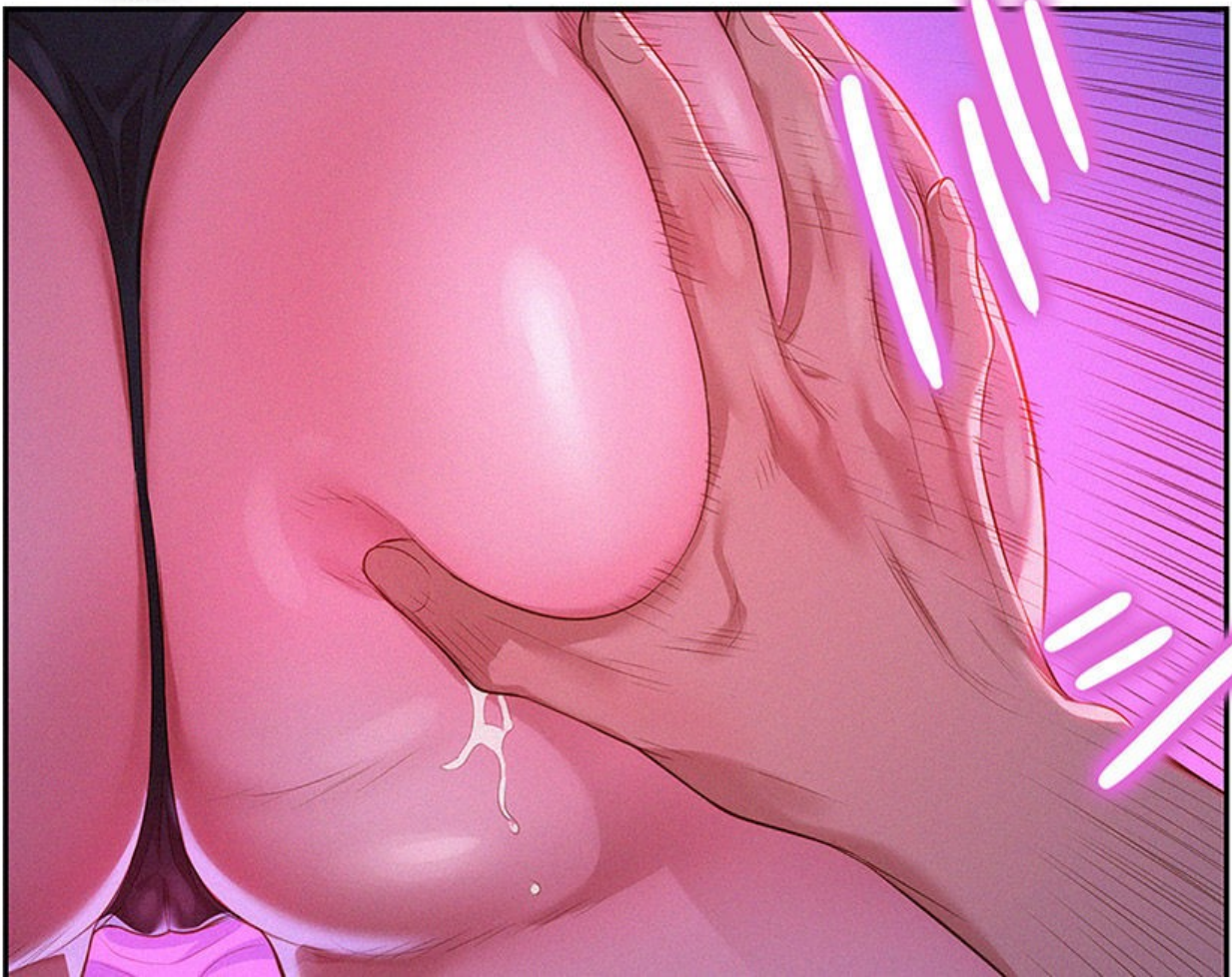


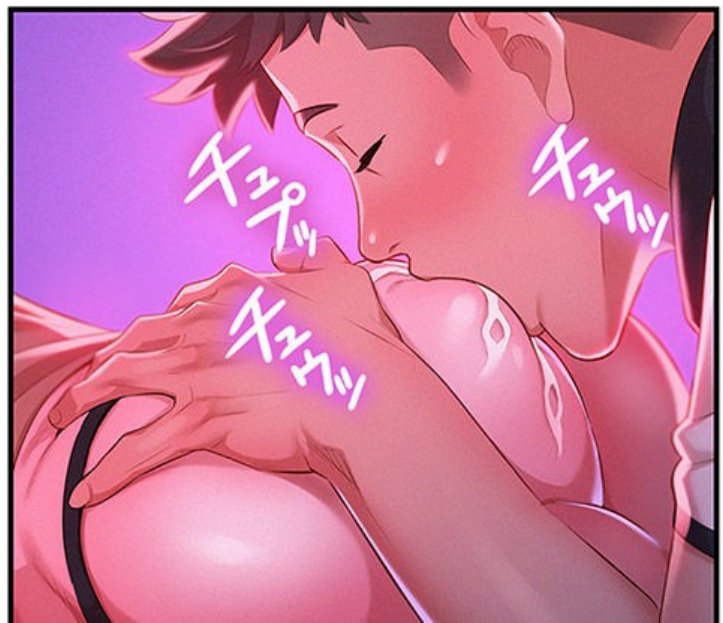


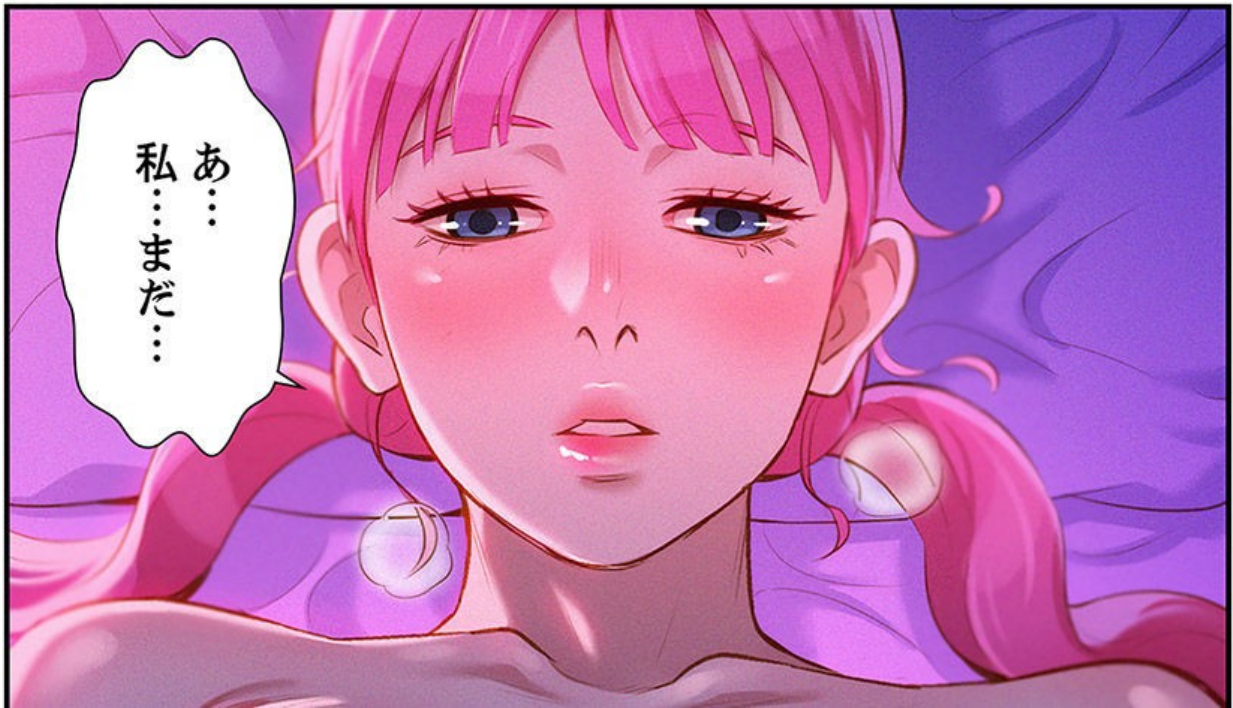
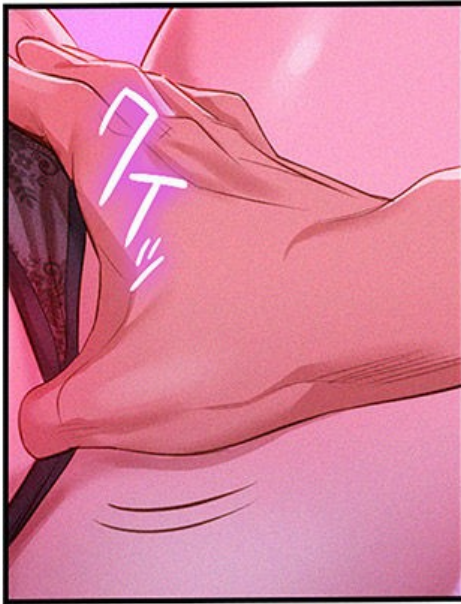
こ…これが
Tバック…



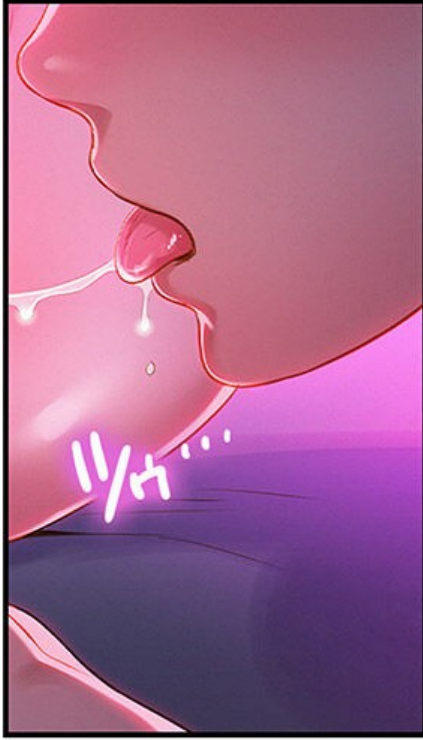
もう一回…
叩きたい





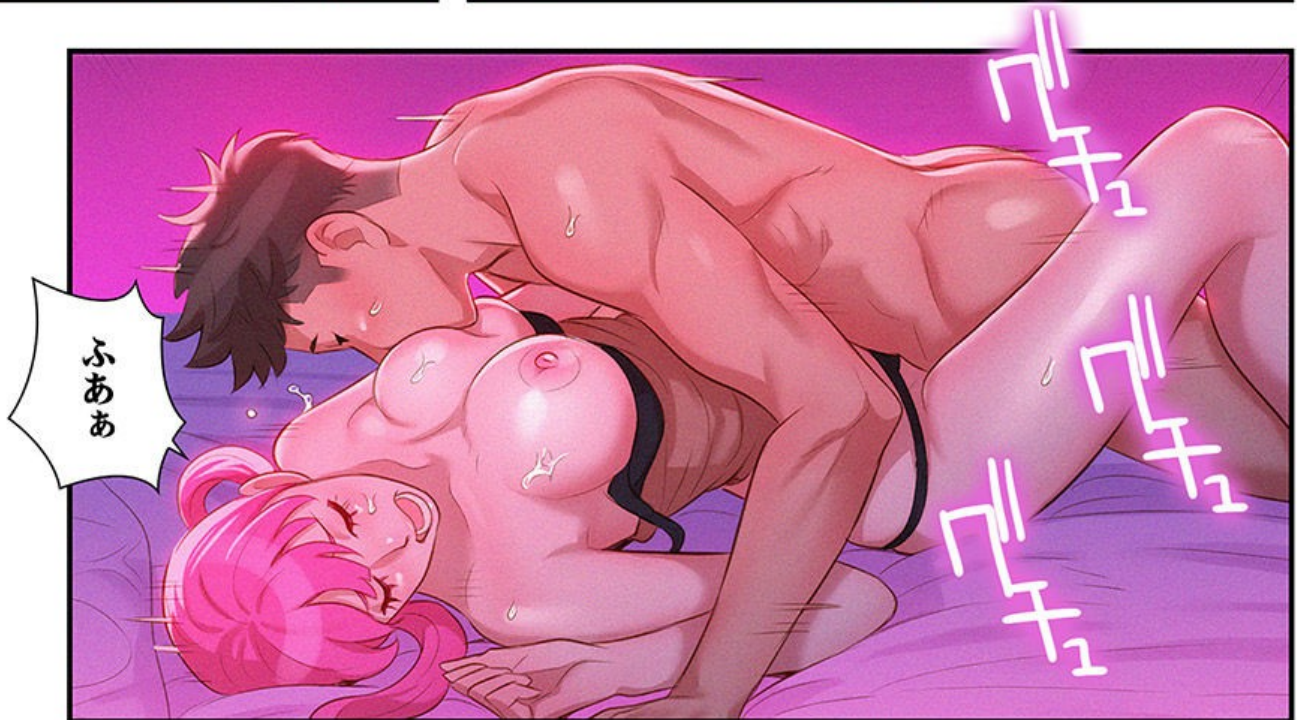








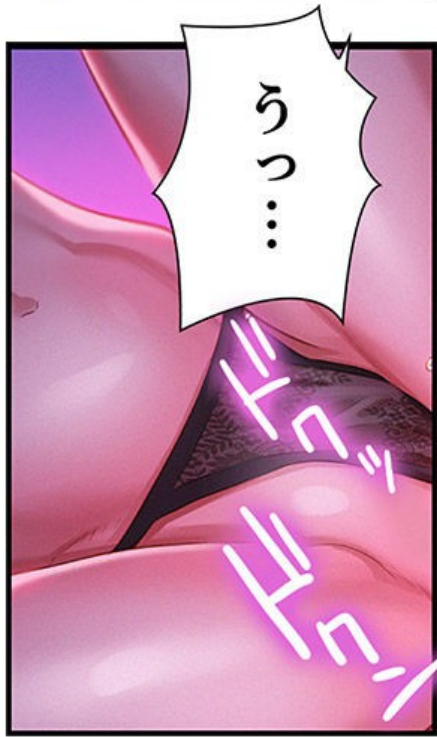








くっくっ!!



うっ…



はあ

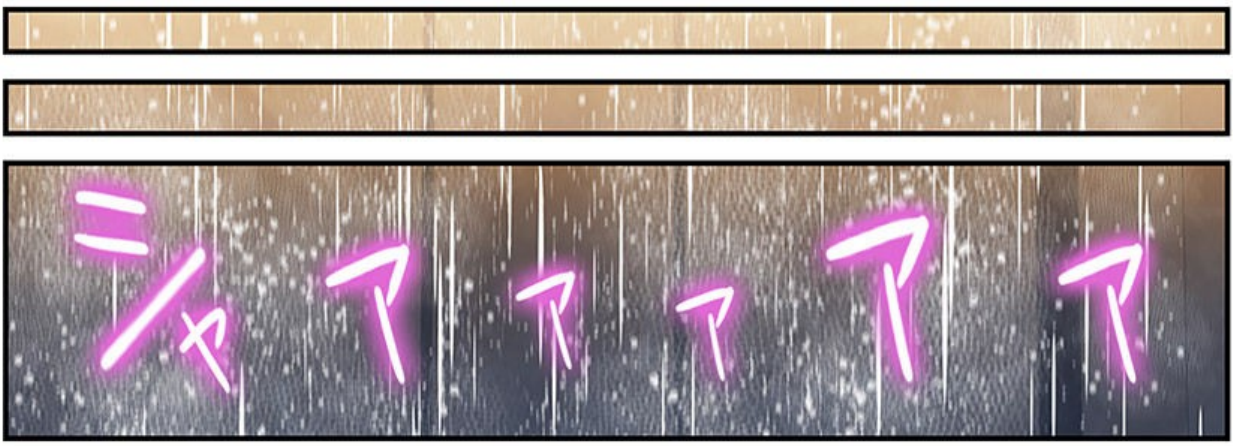
はあ

はあ



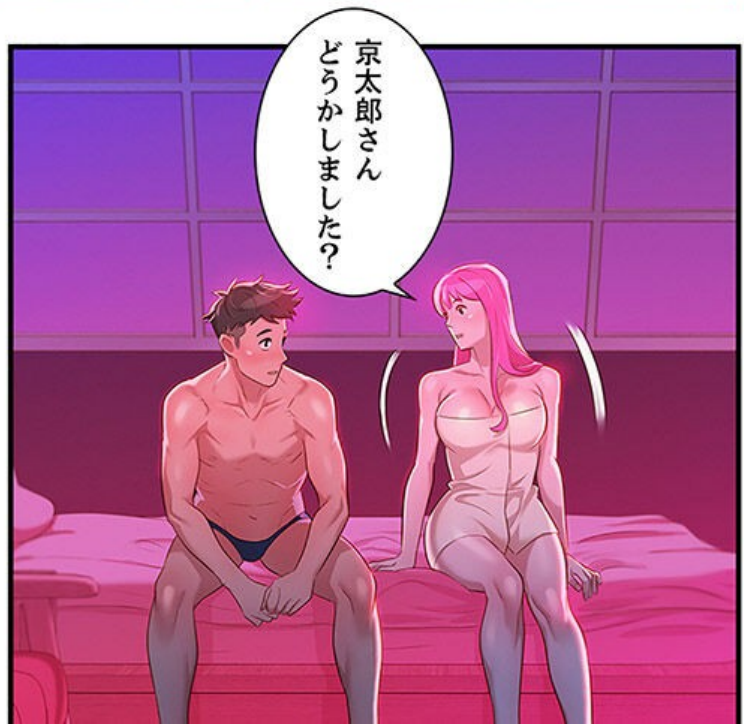
出すよ!

あああん!!











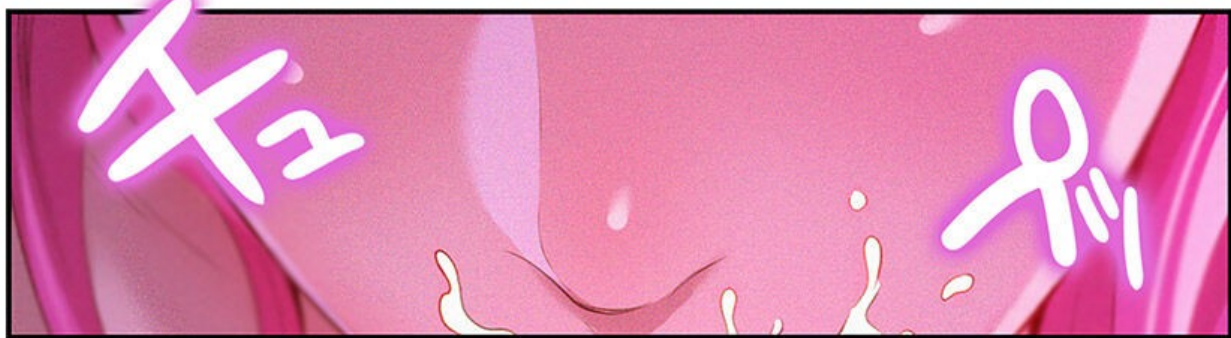


え...あ...
してくれるの？



啜えて
ほしいですか
京太郎さん？

ストロベリー



くろ...



はあ...







こうやって後ろから
突いてみたかった



やっぱり…お尻の
弾力すごい!



やっと…初めて
見た時に想像した
通りになった



京太郎さん…
お尻…

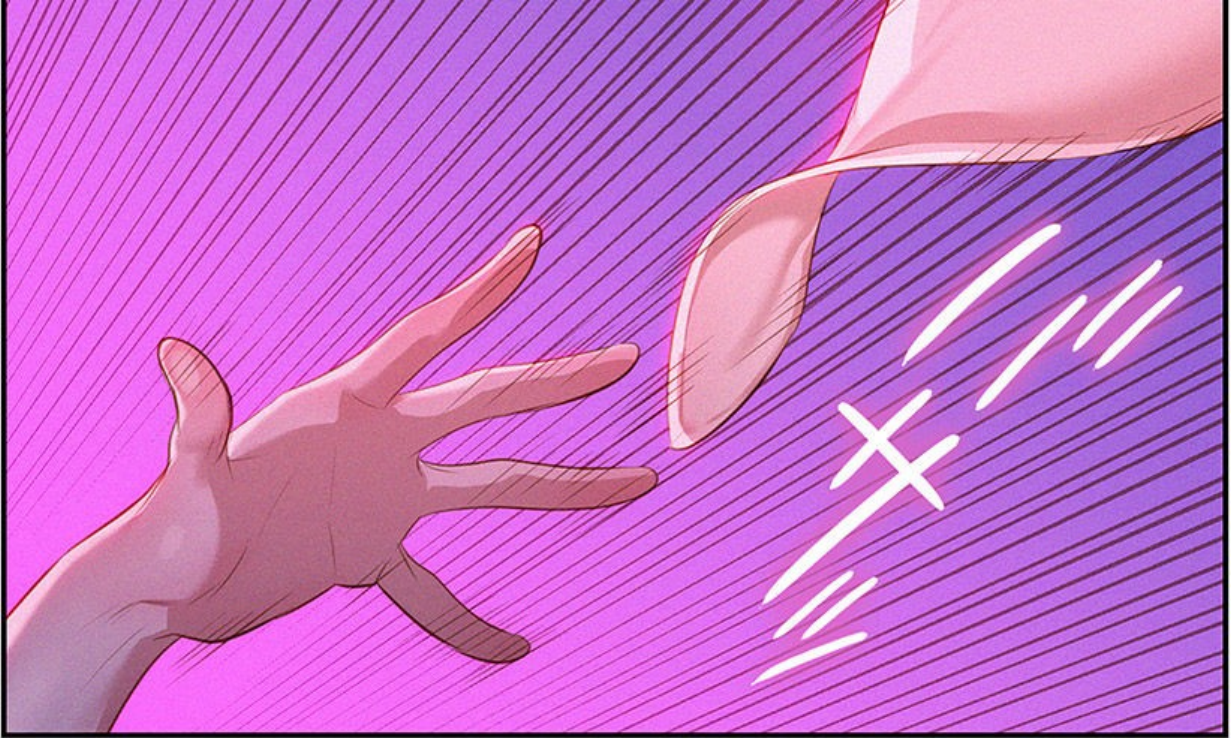


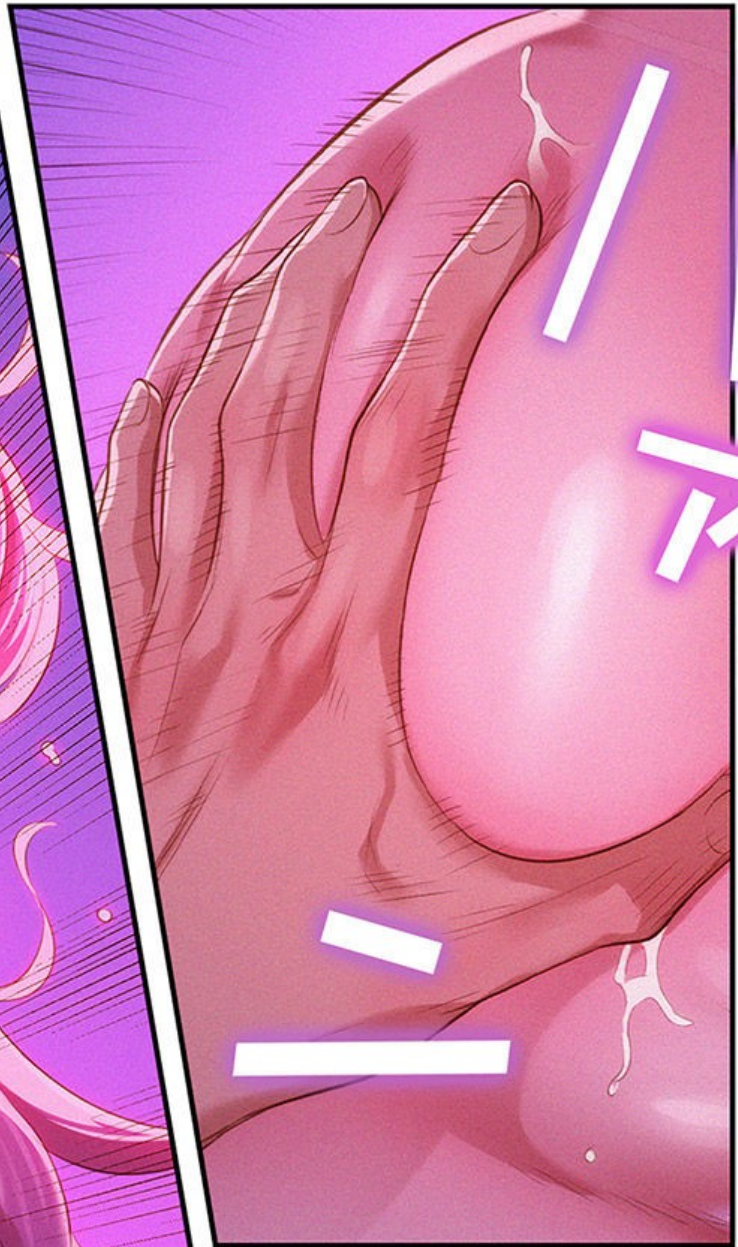
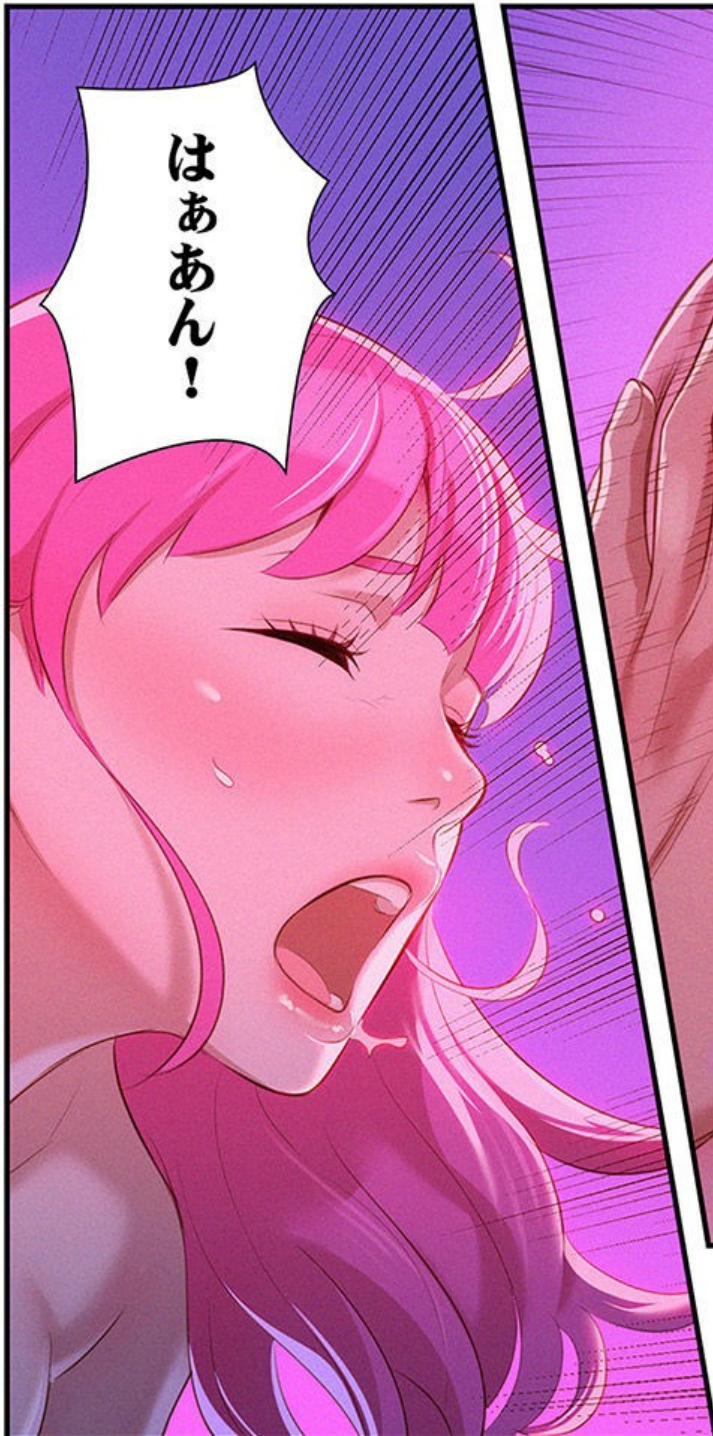
はあん♡

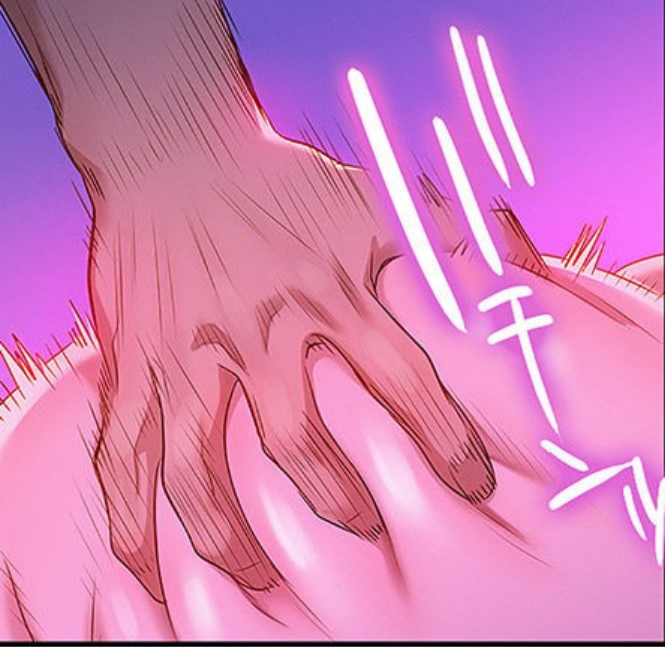
ああん♡



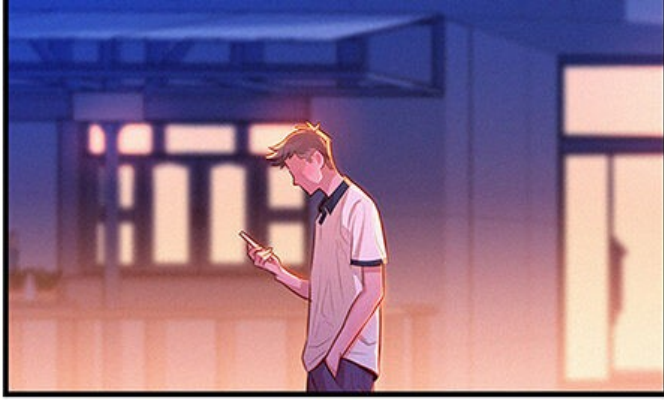
え…
ああ

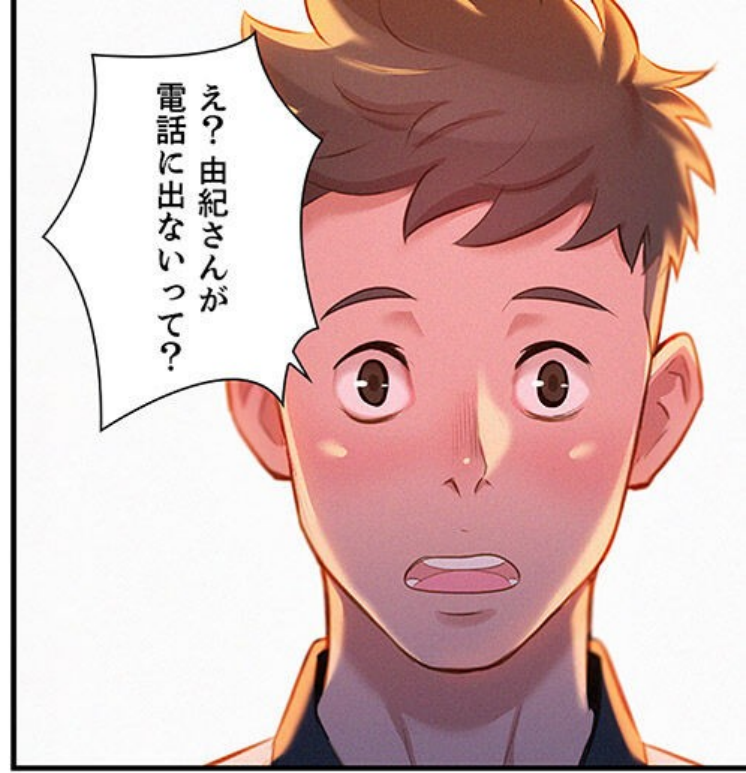


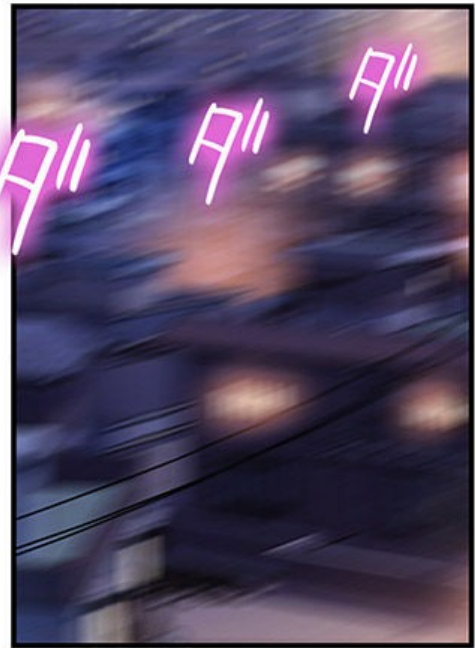
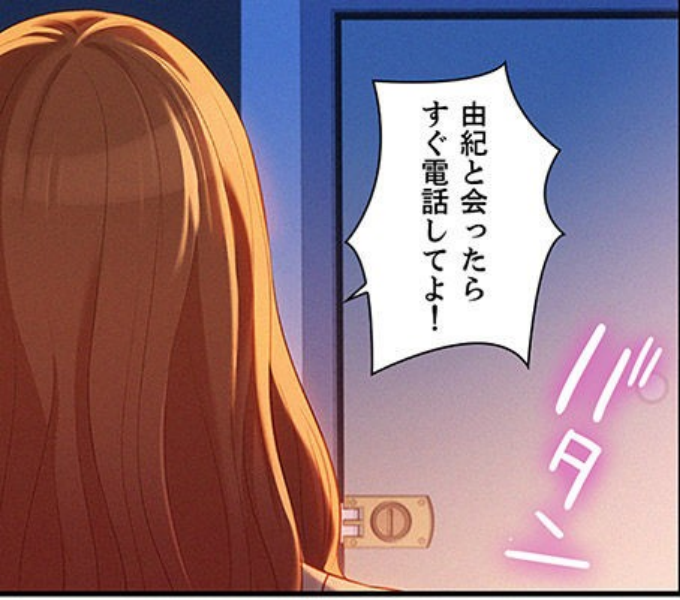




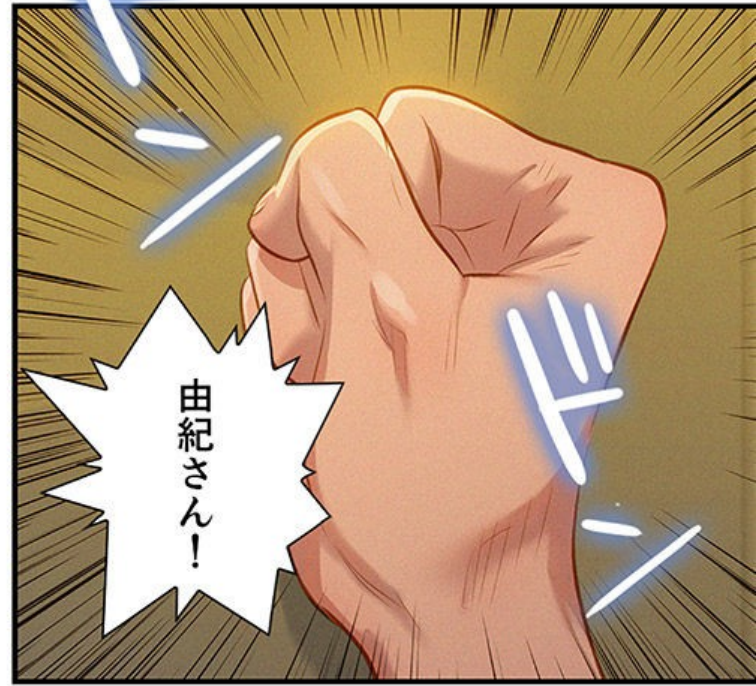














うるさいな…
近所迷惑よ



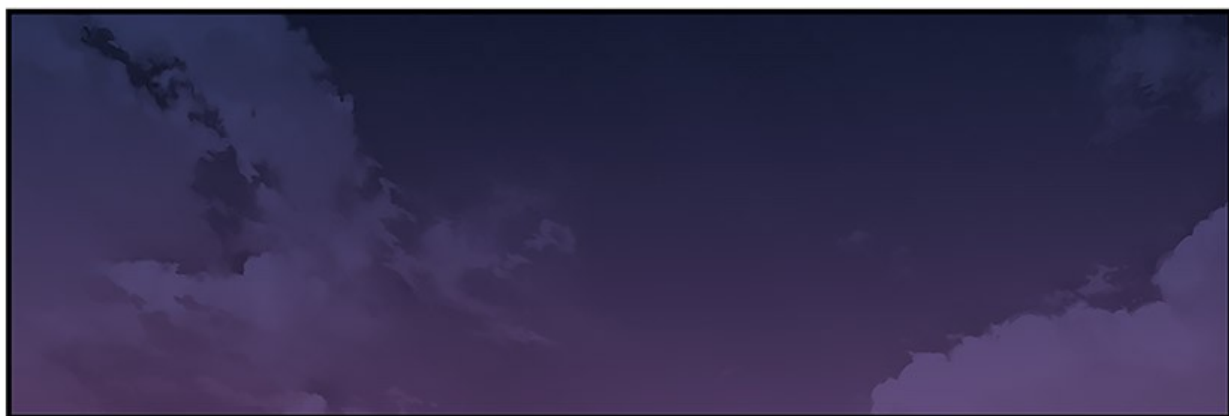
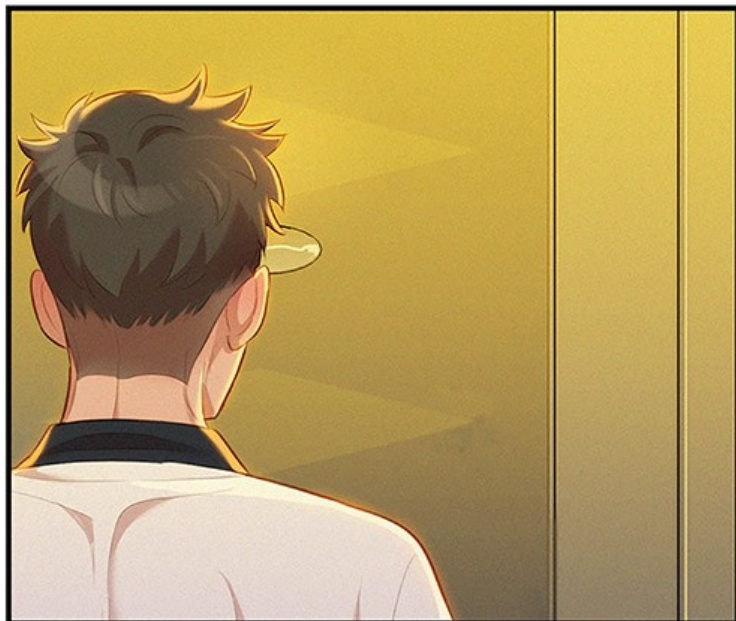
一人で
楽しんでたくせに
心配だなんてねえ

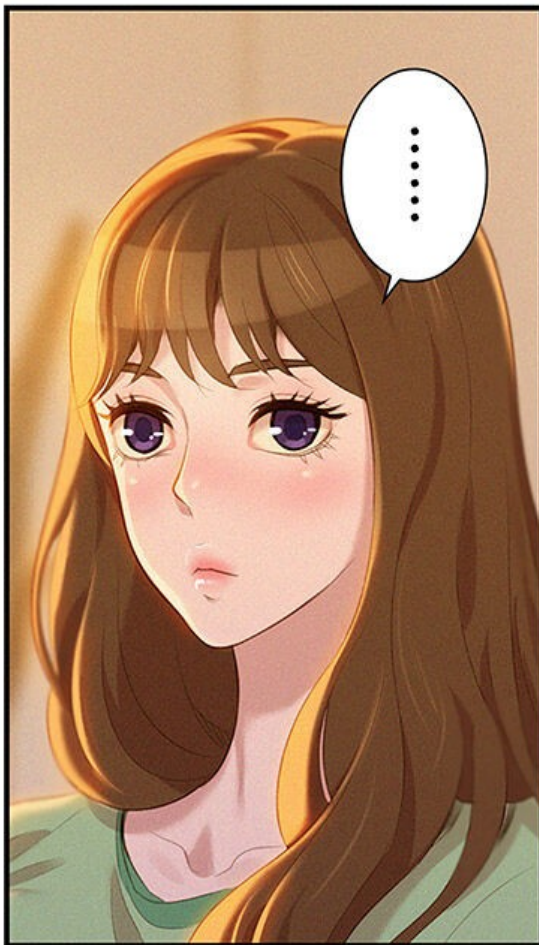


電話にも
出ないから…
心配で…



ドラマ









由紀さん
本当に身体を
許したのかよ!



まさか…本田と
セックスした後
だからなのか?



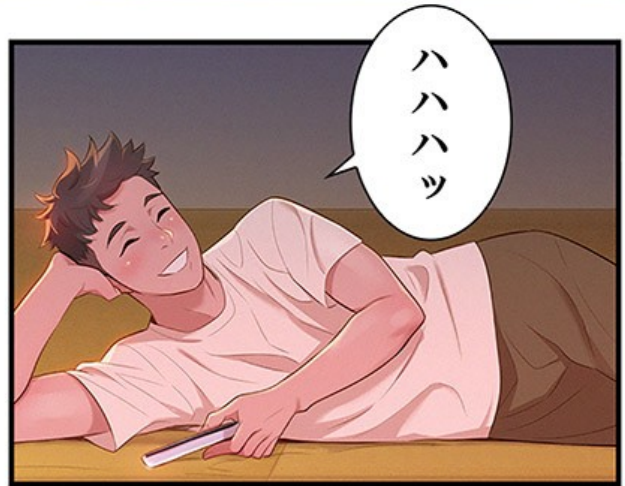
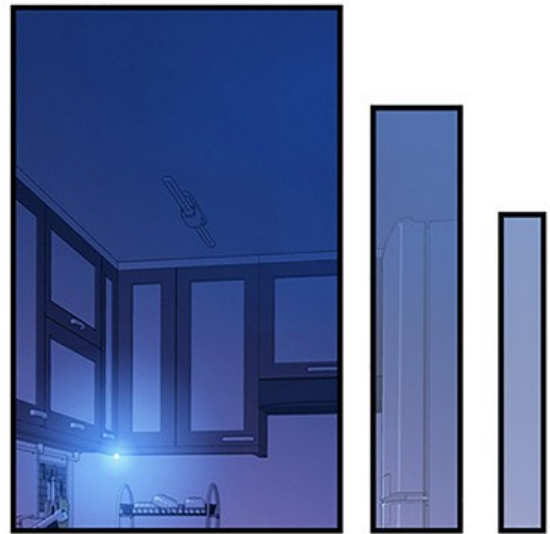
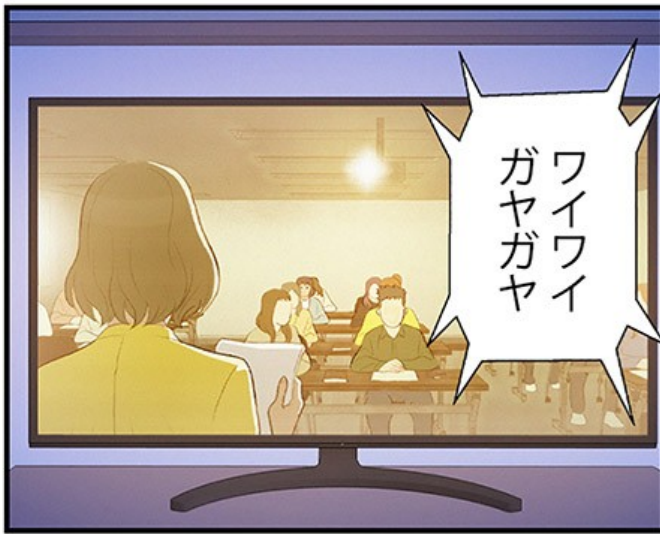
…気にするな
俺だって花菜ちゃんと
セックスしたじゃん

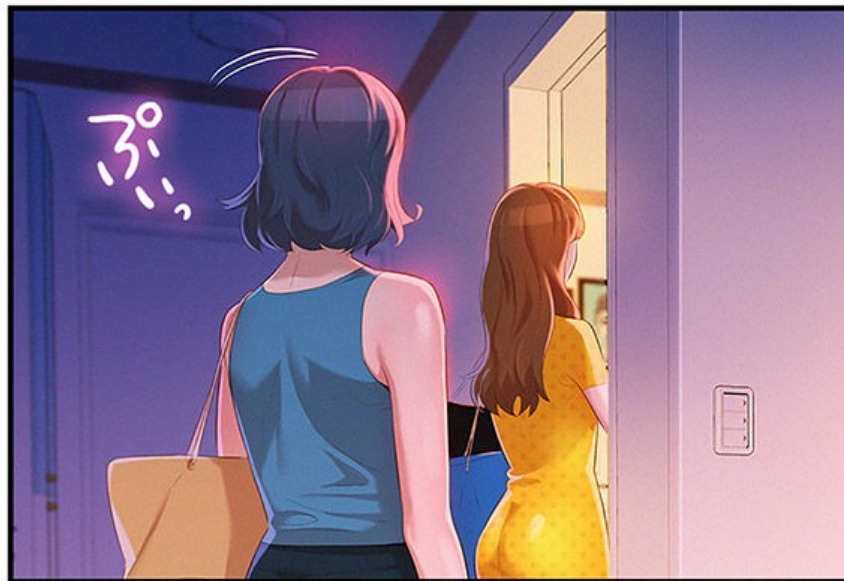
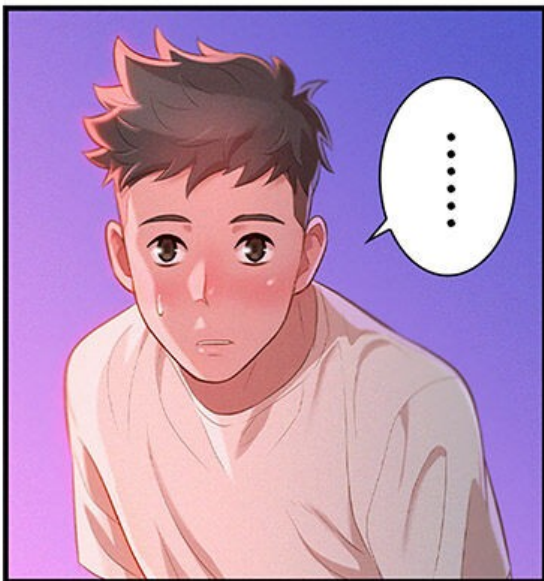
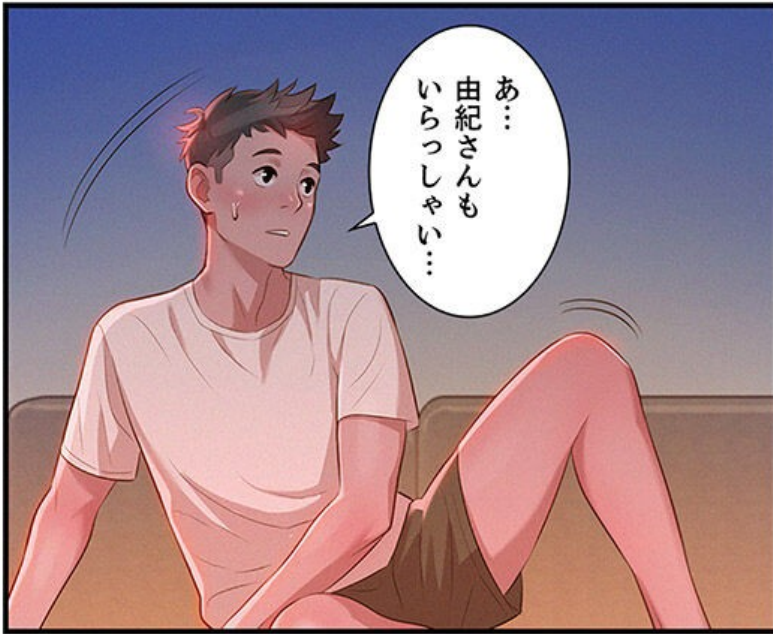


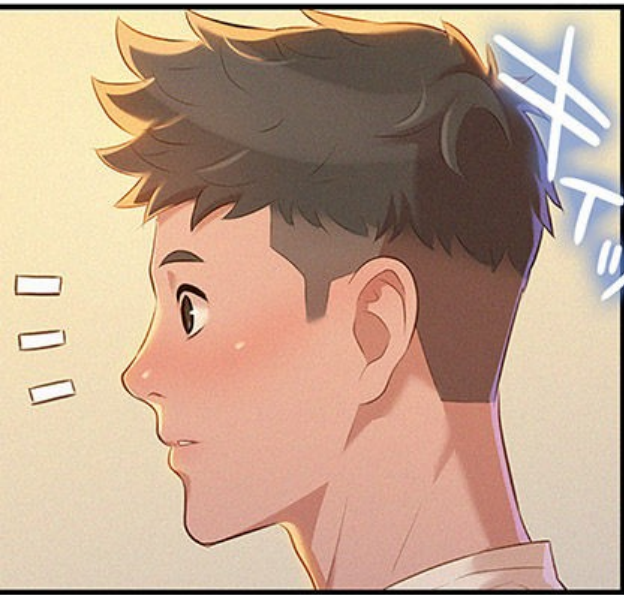
頭がおかしく
なりそうだ…!!

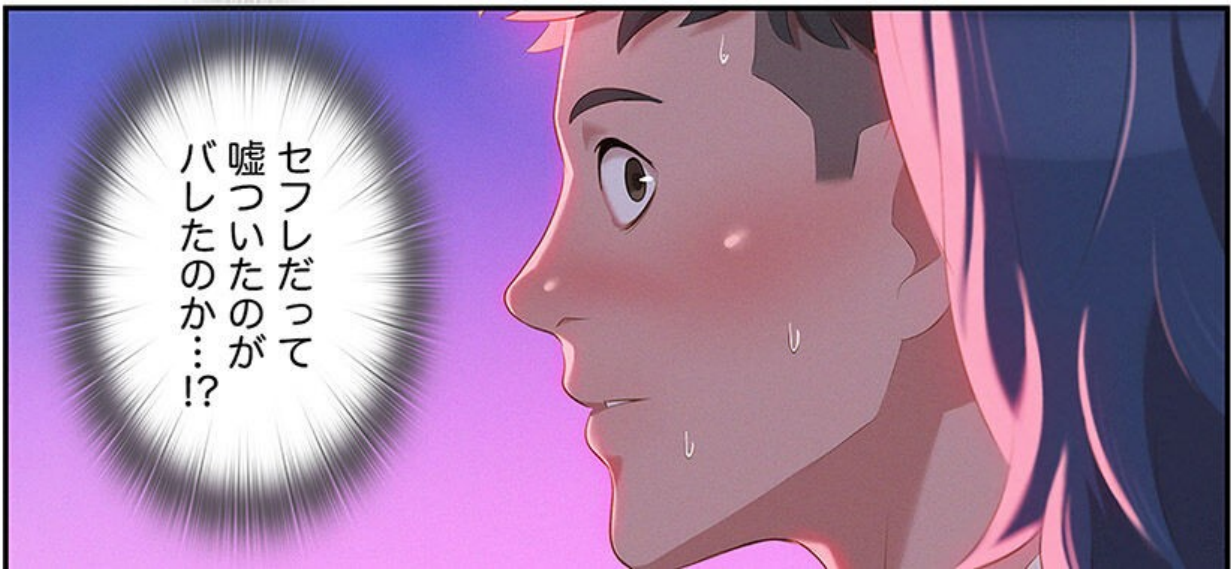
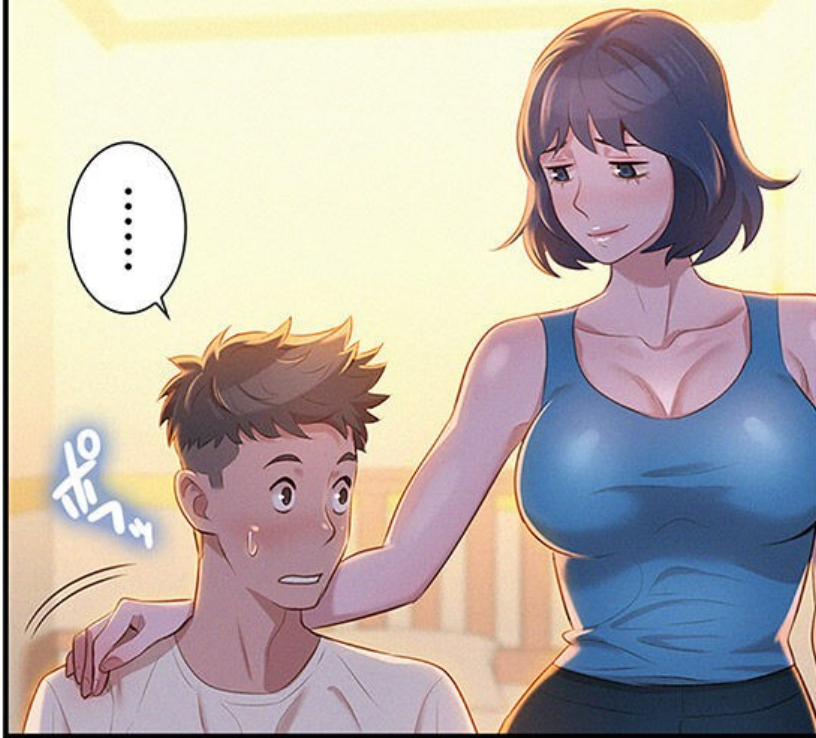














嘘とセフレ 【電子単行本版】 1

著者 kyun ja & タルチョー

発行 Rush!

表紙デザイン CoCo.Design

この物語はフィクションです。登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。